



軍をおいてけぼりにして、貴女の逃げる後をおツかけるなんて、大恥ッ掻きの上の大損でさアね。

クレオ シッ、お黙り。

アントニー、使者にゆきしユーフロニヤスと話しつゝ出る。

アント それが彼男の返辭か？

ユーフ さやうでございます。

アント ちや女王は優遇しようといふのだな、予を引渡しさへすれば。

ユーフ さう申されました。

アント

女王にそれを知らせよう。……(クレオパトラに) 青二才のシーザーへ此白髪まじりの首を送つてお遣りなさい、さうすりやお望み次第の領分が貰へる筈だから。

クレオ

え、その首を？

アント

(ユーフロニヤスに) もう一度往つて来い。奴に然ういへ、彼れは今若盛りだから、世人が特にそこに何等かの殊勳を見出さうと期待してゐると。貨幣や戦艦や聯隊は臆病者にでも使役することが出来る、將校とても然うだ、シーザーでなくとも、小兒でも、好い將校さへ使へば勝利を得る。だから予は、彼れが總て華美な虚飾を脱棄して、零落れた予と、一劍對一劍の關係で、立合勝負をせんことを望むと然う言へ。それを書面に認めよう。従いて来い。

アントニーとユーフロニヤス入る。

エノバ (傍白) さうさ、諾といひさうだ、立派な兵隊を伴れてゐるシーザーが、其幸福な身分を止めて、わざ／＼劍術使ひのお相手に見世物小屋へ出掛けるなんてことを！ 人間の分別て奴は運と聯關つてると見えるわい。外側がいけなくなると、内側もお招待をするものと見える。量目を知らんでも無い癖に、充溢る程のシーザーが空虚のお前さんと一騎打をするだらうなんて思ふてのは！……シーザー、お前は彼人の智慧までも征服してしまつたね。

一侍者出て来り、つか／＼とクレオパトラの前に進みて。

侍者

シーザーの使者が来ました。

クレオ

え、それ以上の禮儀はしないのか？……御覽、腰元共！ 荅には跪いた者が、とかく咲いてしまつた薔薇の前では鼻を掩ふ。……通しなさい。

侍者入る。

エノバ

(傍白) 予と予の名譽心とが爭論をはじめた。馬鹿者に忠義を盡すと、其忠義が馬鹿らしく見える……。とはいへ、戦に負けた主人に忠義を盡しやア其主人に勝つた奴にも勝つ程の美名を歴史上に残すことが出来る。

シディヤス出る。

クレオ

シーザーは何と言はれる？

シディヤ

別席で申上げませう。

クレオ

腹心の者ばかりぢや。遠慮には及ばん。

シディヤ

ではアントニーどのに取つても、やはり腹心の方々でございませう。

エノバ

アントニー殿にだつても、シーザーどの同様に、相應に腹心の者がありまさらアね、まるッきり御用無しとなツちまはない以上は。シーザーの御意次第で、此方の主人は、すぐにも飛んで行つて、お身方になりませう。吾徒の如きは、無論主人が主君とする人の御家來なんです、すなはちシーザーの

御家來です。

シディヤ なるほど。……(クレオパトラに)では最も名高い御前。シーザーは申されます、御前には、只もう先方はシーザーちやと思召さるゝ以上に、何等お考へなさるに及びません、さやう申し上げよとの事でございます。

クレオ それから。……(半分獨語のやうに)あゝ、立派な言分ちや！

シディヤ シーザーは、貴女がアントニーと御合體遊ばされたのは、彼れをお愛しなされたが爲ではなく、お怖れなされたが爲であると、承知してをられます。

クレオ おゝ！

シディヤ それゆゑ、貴下の此たびの御不名譽は、自らお招きになつたのではなく、外から強ひられ遊ばされたのであると申して、お氣の毒がつてをられます。

クレオ シーザーどのは神様ぢや、眞實の事を知つてをられる。予は好き好んでア

ントニーに隨從してゐたのではない、全く威伏されてゐたのである。

エノバ (傍自)事實だか如何だか、アントニーに訊いて見よう。……(アントニーに言ふ積り)でもしく、ずんく海水が浸入りはじめましたせ、お前さんはもう駄目だ、沈没だ、一番可愛がつてるのさへお前さんを見棄てるんだもの。

エノバ 歎息しながら入る。

シディヤ 何か御要求がございますれば、シーザーへ申し傳へませう。シーザーは、御請求あるのをば、願はしく思つてをられる位でございます。若し貴女が彼れの好運にお縊り遊ばされるやうでございましたら、非常に満足せられませう。とにかく、貴女がアントニーをお棄て遊ばされて、シーザーを天下の主と崇め、其保護をお受けなさるゝ御存念と聞かれましたら、恐悦せらるゝでございませう。

クレオ 其許の名前は！

シテイヤ 私てまへはシテイヤスと申まをします。

クレオ 御苦勞ごくろうながら、代理たいりとして何卒なげシーザードのへ斯様傳かうつたへて下さい。クレオ
パトラは御手ごてに接吻せつぶんを致いたします。何時いつでも王冠わうくわんを御脚下ごきやくかに獻けんじて跪ひざまづきま
せう、又また此埃及このエジプトの處分しよぶんは、全世界ぜんせかいの主あるじたるシーザードの、お口くちから承うけたまはら
うと致いたしてをると、斯かう傳つたへて下さい。

シテイヤ 然さう遊あそばされるのが最もつともお立派りつぱでございませう。どのやうな非運ひうんが迫せまりま
しても、智慧ちゑ分別ぶんべつの働はたらきます以上いじやうは、不幸ふかうに墮おち入いることはございませぬ。
……御手ごてに敬意けいゐを致いたしますことをお許ゆるし下さりませ。

クレオ シーザードの、父御ちよごが、諸王國しよわうこくの攻路こうりやくに思おもひを凝こらして居をられた最中さいちゆうにす
ら、幾度いくども此不束このよつつかな手に接吻せつぶんを雨あめのやうにせられたものぢや。

シテイヤス 跪ひざまづきてクレオパトラの手に接吻せつぶんする。其途端そのとたんにアント
ニーはエノバースエノバースを從したがへて出いて來きたり、此有様このありさまを見みて駭おどろく。

アント や、接吻せつぶんの特寵とくちゆうまでも……(シテイヤスに)汝きまは何なんだ?

シテイヤ (靜しずかに立上たりて)最もつとも圓満えんまんな、世界せかいに君臨くんりんするに最もつとも適當ごてんたうな御仁ごじんの命令めいれいを執行とりにこな
うてゐるに外ほかならん者ものでございませう。

エノバ (傍白いま)今いまに撲ぶたれるぜ。

アント (怒おこつて奥おくに向むひて)こら! だれか居をらんか?……あ、此意このとびめが!……(奥おくに
向むひて)畜生ちくしやう! え、如何どうしたといふのだ! 最早もつと予おれには命令めいれいする威力かりよくも
なくなつたか! 此間このあひだまでは、予おれが一聲呼こゑよべば、列國れつこくの王共わうどもが、投餅なげもちに馳集はせあつ
まる小童共こさうどものやうに、駈出かけたして來きて「御用ごようは?」といったものだに……やい、
汝等きさまらは聾つんはか? 予おれは尙なほアントニーだぞ……

侍者じしやら出いて來きたる。

此野郎このやらうを引張ひっぱつて行いつて、笞むちで打うて。

エノバ (傍白いま)子獅子こじしと戲あそべてる方がまだしも安全あんぜんだ、死しにかゝつた親獅子おやじしと遊あそぶの

は危険だ。

アント 不埒千萬！ 其奴を撲て。これがシーザーに降服をした二十餘の最大屬

國の國王であつたからつて、あの女の手に觸れるなどとは無禮至極なことつた。……(クレオパトラをゆびさして)あの女の名は今は何と言ふ？ もとはクレオパトラと呼ばれてゐたんだ。……やい、彼奴を撲て、小童のやうに泣面をし加めて、赦してくれと言つて吠えやアがるまで。彼方へつれてゆけ。

シディヤ あゝ、もし、アントニードの！

アント えゝ、引摺つてゆけ。打つたら又つれて来い。シーザーめの此奴隷に、奴への返書を持たせてやるから……

侍者ら シディヤスを引立てゝ入る。

(クレオパトラに)貴女は予が逢つた以前に、最早半分がた凋んでゐたのだ。予は何て大馬鹿者だ！ 正しい嫡子を産ませもしないで、女の鑑ともいふべ

き賢女に、徒らに羅馬の空間を守らせておいて、あんな下司奴に白い齒を見せるやうな女に、予は欺されてゐたのか？

クレオ まア貴下……

アント 貴女の浮氣は昨日今日に始まつたのぢやアない。けれども人間は、おひおひ悪徳で乾固つて來ると……あゝ、あさましいこつた！……賢明な神々が故と吾々の目を掩つて、智慧分別を掃溜へ抛込ませ、不埒や不品行を有りがたがらせて、威張つて破滅の淵際へ歩いて行くのを、嘲り笑つて見てゐるのだ。

クレオ おゝ、まア、それほどまでに！

アント 貴女は死んだシーザーの膳の上の殘肴冷炙であつたのだ。いや、ネイヤス・ポンベイの食ひ餘しでもあつたのだ。まだ其他にも世評には上らないが、荒淫の爲に費した時間が、どの位あるか分らないのだ。なせならば、貞

節とは如何にあるべきか位は、ほゞ推察が附くだらうが、それが實際如何なものかといふことは、到底貴女なんぞにや分らないのだから。

クレオ

何故まアそのやうなことをお言ひなさるのぢや?

アント

賞を貰つて「有りがたうござりますす!」と言ふやうな野郎に、予の遊び仲間
の其の貴重の手を玩具にさせるとは! その立派な、列國の王共から歸依
心服の證印を受くべき其手を! あゝ、バザンの丘へでも登つて、牛や羊
と一しよになつて唸りたいわい! 予は氣が狂ひさうになつてゐる。だ
から、行儀よく口を利くなんぞは、まるで罪人が、早く首を縊めてくれるか
らと言つて、禮を處刑係に述べてゐるやうなもんだ。……

侍者らシテイヤスを伴ひて再び出て来る。

打つたか?

侍者一

みつしり打ちました。

アント

わめいたか? さうして赦してくれといつたか?

侍者一

へい、お慈悲を願ひました。

アント

(シテイヤスに) 親父が尙生きてゐるなら、汝を女に生み附けなかつたのを後悔
させる。汝もシーザーの凱旋の隨従をするのを笑止に思へ、あんまり奴に
附廻つてゐた罰で打たれたんだから。將來は婦人の白い手を見るたびに、
瘡に取附かれて戦慄しろ。歸つて行けシーザーの許へ。どんな待遇を受
けたかを報告しろ。予が憤激してゐたのを奴に傳へ、過去の予を知つて
ゐながら、現在の境遇にばかり目を留めて、傲慢無禮の振舞をするのを予
がおそろしく怒つてゐたと奴に傳へろ。……今予を侮辱するのは極めて容
易だ、以前は予を嚮導した好運の星共も、今は悉く圓座を去つて、其光りを
底知れん地獄の暗の中に没してしまつてゐるんだから。……若し予の言つ
たことや爲たことに不平があるなら、もと予の家來のヒッパークスが奴の

手許にゐるから、打つなり、縊るなり、拷問するなり、勝手にして、それで返報をするが可いと奴に言へ。きつと其通りに言ひ傳へろ。管痕を背負つたまふで歸つてゆけ。往ツちまへ！

シディヤス 入る。

クレオ

(機嫌を窺ひながら) 御用向は最早了みましたのかえ？

アント

(尻目にかけて) あゝ、情ない！ 人間界の明月が月蝕となつてしまつた！

こりや全くアントニーの滅びる前兆だ！

クレオ

(歎息して) 暫く待つてゐるより外に爲様がない。

アント

え、シーザーに媚びる爲に、あんな細袴紐を結ぶ役を勤めてゐるやうな奴にまで流盼をなさるのか？

クレオ

まア！ いまだに此心が分らんのか？

アント

冷い！ 心だらう？

クレオ

あゝ、若しそれが眞實なら、天よ、願はくは、其冷い心に激しい毒を含ませて毒を醸し、さうして眞先の一粒を、先づ此妾の頸元に降り下し、さうしそれが溶けると共に此一命を終らせてしまつて下され！ 其次の一粒ではシーザリオンを打殺して下され！ それから又段々に、我身を分けた記念の子供らはいふに及ばず、立派なく、埃及國民全體をも其怖しい毒あらしで倒死をさせて、墓も掘らいで棄てゝおいて、あのナイル河の蠅や蚋の腹の中を埋葬地にしたがよい！

クレオパトラ 伏し倒れて歎く。アントニーの心解ける。

アント

もう怨みは解けた……

クレオパトラ を抱き起し慰めつゝ、

今シーザーはアレキサンドリヤに陣取つてゐるから、予は彼處で勝敗を決する積りだ。我陸軍の威力が依然としてゐる上に、離散した海軍も再び集

合して勇ましく海上に浮んでゐる。……心臓よ、これ、お前は何處へ往つて
ゐたんだ？……え、これ？……若しもう一度戰場から此の唇に接吻するた
めに戻つて来るやうだと、予は必ず敵の血を浴びて戻つて来る。きつと此
劍で以て美名を歴史上に留めて見せる。まだく望みがある。

クレオ それでこそ予の立派な殿御ぢや！

アント 筋力をも心の臓をも息をも、平生よりは三層倍にして残忍にやツつけてく
れる。面白をかしく遊び暮してゐた時分には、戯言を言つた褒美にさへ命
を助けてやつたこともあつたが、斯う決心した以上は、かりにも邪魔をす
る奴等は、悉く暗黒へ葬つてくれる。……さ、もう一度花々しい一夜を過さ
う。鬱いでゐる將校共を呼んで下さい。もう一度大宴會を催して、夜半
の鐘の音を嘲弄しよう。

クレオ けふは予の誕生日ぢや。あぢきなく過してしまはうと思つてゐたのぢや

が、御前がアントニーにおなりなされた以上は、予もクレオバトラに戻り
ませう。

アント まだ必然うまく行く。

クレオ 將校たちをみんな此處へお呼び。

アント さうしろ、言ひ聞かせることがある。今夜は彼奴等の創口から酒が漏る程
に飲ませてくれる。……さア、妃、まだ脈がある。此次の戦ひには死の
神が予に惚れるくらゐの働きをしてくれる、彼奴の狂暴な鎌以上の働きを
してくれる。

エノバ エノバースだけを残して皆々入る。

エノバ あの様子ぢや電りと睨くらをしても勝ちさうだ。死物狂ひといふのは、
怖しいのが分らなくなるほどに怖えるのをいふのだ。あゝいふ氣分にな
ると、鳩も駄鳥を突衝く。此方の大將も脳味噌が減つて來たので勇氣が出

たんだ。が、勇氣が分別を食ふやうになつちや、肝腎のお武器も食はれてしまつて、用をしなくなる。……どうかして彼仁と手を切ることにしよう。
入る。

*
*
*
*
*
*
*
*
*
*
*
*

第四幕

第一場 アレキサンドリヤ市の附近。シーザーの陣營。

シーザー、アグリッパ、メシナス、軍隊をひきゐて出て来る。シーザーは書状を讀んでゐる。

シーザ
彼れは予を小童と呼んで、埃及から撃退することが出来るかのやうに罵り、使ひの者を叩き拂ひにした上に、予と一騎打をしようと思つて挑んでゐる。死に方はまだ他に幾らもあるぞと、あの老爺の亂暴者に知らせてやるが可い。

まづそれまでは一笑に附しておくべきぢや。

メシナ

あれほどの人物が怒り猛ける場合には、斃れるまで狂ひ廻るに相違ありま

せん。氣ちがひのやうに

なつてゐるこそ幸ひ、息を

つがせずお狩立なさるが

よろしい。怒る者は必ず

隙だらけです。

シーザ

主な將校連に、明日はいよ

く勝敗を一戦に決する

積りぢやと傳へてくれ。

我軍には、つい此間までアントニーに事へてゐた者が多勢ゐる、その人數
だけでも彼れを生捕るに足るくらゐぢや。さう傳令してそれから全軍を



饗應せい。酒食の貯へは十分に有る筈ぢや。此際大振舞をするのは、彼
等の勤勞に對して當然なことぢや……あゝ笑止なアントニー！
入る。

第二場 アレキサンドリヤ。クレオパトラの宮殿。

アントニー、クレオパトラ、エノパーパス(名はドミシヤス)、チャーマヤン、アイラス、
アレキザス及び他の者ら出る。

アント ドミシヤス 奴は予と一騎打をしないといふわい。

エノパ しますまいよ。

アント 何故しないか？

エノバ 貴下よりも運が二十倍も好いんですからね、二十に一ぢやア割がわるいと
思ふんでせう。

了ント 予は、明日は、海陸兩方で戦ふ積りだ。勝てば生存するが、負ければ死んで
行く名譽を血に浸して歴史上に復活するんだ。汝もしつかり戦ふ氣か？

エノバ やツつけます、さうして「後は如何ともしやアがれ！」と叫いてやりませア。
アント 感心々々！……さア〜……我家の從隸を呼出してくれ。今夜は思ふ存
分に奴等に飲食をさせるが可い……

アントニーの家來多勢出て來る。アントニー一々に呼び迎へて
握手する。

汝、手を與れ、汝はよく忠義を盡してくれた……(又一人に)汝もなア……
(又一人に)汝も……(又一人に)さうして汝も……(又一人に)さうして汝も……
汝たちは一同よく奉公してくれた、さうして諸國の王が汝等の同輩であつ

たんだ。

クレオ (エノバに傍白)如何したのであらう？

エノバ (クレオに傍白)あれア悲しくなるといふと、心から飛出す一種の奇妙な
いたづら者なんです。

アント (又一人に)さうして汝も正直な奴だ。予は、出来るものなら、予が汝たちの
人數だけに分身して、さうして汝等が一個のアントニーに打成されりや可
いと思ふ、さうすりや恩返しに、予が汝等に奉公するんだ。

一同 とんでもないことでございます！

アント なア汝たち、どうか今夜ア給仕をしてくれ。酒盃に制限をするな。存分
にやつてくれ、予の全帝國が汝等と同輩で、予の言ふ通りになつてゐた時
分と同じやうに。

クレオ (エノバに傍白)どうしようといふのだらう？

エノバ (クレオパトラに) 家來達を泣かせようといふのです。

アント 今夜は給仕してくれ。多分これが汝らの奉公納めだ。おそろく最早予の

顔を見ないだらう。或ひは見るにしても、創だらけの幽霊かも知れない。

多分明日は他の主人に奉公するだらうぞ。予はこれが訣別の積りでゐる

のだ。おい、汝達予は決して汝達を逐出しはしない。いや、汝達の忠義

と夫婦になつた料簡で、死ぬまでも一しよにゐるぞ。今夜二時間だけ給仕

してくれ、それ以上は望まん、さうすりや神さまが汝達に果報を下さる!

家來一同頭を垂れて泣く。

エノバ (アントニーに) もし、如何なさらうてんです、一同を沮喪らしておしまひなす

つたちやありませんか? 御覽なさい、一同泣いてまさ。わたしも馬鹿だ、

涙が出て来た。見つともない、女にならせちやいけませんよ。

アント (わざと陽氣に笑つて) ほゝほゝほゝ! すまんことをした、そりやとんでもな

いこつた! ……汝らの涙の落ちる處に、天の恵み簇り生せよ! ……おいお

い汝たち、汝たちは予の言つたことをあんまり悲しい意味に取つたのだ。

予は、汝らを慰めようと思つて、どうか今夜は徹夜で飲んでくれと、然う言

つたに過ぎないんだ。なア汝たち、予は明朝は大丈夫だと思ふ。死んで

美名を残すんぢやなくツて、勝つてめでたく生きるだらうと思ふ。さアさ

ア、宴會を開いて、心配事を溺してしまはう。

入る。

第三場 同處。宮城の前。

二人の兵卒警備の爲に出て来る。

第一兵 兄弟今晚は。明日はいよくだね。

第二兵 どちらかに定るだらう。さやうなら。……街で妙な事を聞かなかつたかね？

第一兵 うんにや。何か珍聞があるかい？

第二兵 恐らくほんの噂だらうよ。御機嫌よう。

第一兵 うん、御機嫌よう。

他の二兵卒出て来る。

第二兵 諸君、御注意なさい。

第三兵 君にもね。御機嫌よう、御機嫌よう。

四人の兵卒らはおの／＼舞臺の各隅に位置を占める。

第四兵 吾徒は此處にしよう。もし明日海軍さへうまく行けア陸兵の方は大丈夫と思ふがね。

第二兵 素敵な、勇敢な軍隊だからねえ。

此時(舞臺の床下より)木笛の聲が聞える。

第四兵 叱！ あの音は何だ？

第一兵 しづかに／＼！

第二兵 や、何だ？

第一兵 空で音楽が聞える。

第二兵 いや、地の下だ。

第四兵 好い前兆だらうか？

第二兵 うんにや。

第一兵 叱々！……どうしたツてんだらう？

第二兵 こりやア必然アントニーどの、信じてござる英雄祖神さまが何處かへ往ツちまふんだ。

第一兵 彼方へ往つて、他の連中にも聞えるかどうか、訊いて見よう。

二人は他の位置まで進む。

第二兵 おい、諸君！

皆々 (同時に口を利く) おい、おい！ 君聞えるか彼音が？

第一兵 うん。奇態だね！

第三兵 諸君、聞えるか？ 君がたにも聞えるか？

第一兵 聲の後を尾けてつて見よう見張場の限界の處まで。どうして音が止むかを突留めよう。

皆々 よろしい……奇態だね。

皆々 入る。

第四場 同處。宮殿中の一室。

アントニーとクレオパトラと出る。チャーミヤン其他侍す。

アント (奥に向ひて) イロス！ 予の鎧を持つて来い！

クレオ 些と御寝なれよ。

アント 何の、心配なさるな……イロス、こら！ 予の鎧を早く！

イロス 甲冑を持ちて出る。

さ、さ、頼む、その鎧を被せてくれ……けふ若し運命めが此方の有にならんやうなら、それは、彼女神を頭から馬鹿にしてかゝるからだ……さア。

クレオ わしも手傳はう。こりや如何するのぢや？

アント あゝ、打棄つてお置きなさい、打棄つて！ 貴女の役は予の此心に甲冑を被せるんだ。……（イロスに）ちがつてるく。これだく。

クレオ いゝえ、眞實に予も手傳はう。……（イロスの手助けをして鎧の紐など結びながら）斯う



にちがひない。

アント よしく。……これなら必然勝つ。……（鎧を被りてイロスに）どうだ、好いだらう？

イロス 汝も鎧を被て来い。

クレオ へい、直に被て参ります。

縮鐵は斯う締めて可いの

であらう？

アント けつこうく。之を予が解いて休まうと思はないうちに解かうとする奴

は、大霹靂に逢ふぞ。……イロス、汝は不器用な奴だ。妃の方が汝よりやすつと手際だ、本職だ。早くしろ。……おゝ、女王、けふの軍ツぶりを貴女に見せたいよ！ 予のすばらしい働きが見て貰ひたい。けふこそ本事を現すんだ。……

イロス ほゝ鎧の主な部分を被せ了る。
鎧を著したる一兵士出て来る。

お早う。よう来てくれた。おぬしは如何にも戦争に老練さうな顔付をしてゐる。好きな仕事だと、朝も早く起きて喜んで飛出すもんだ。

兵士 まだ早うございますが、一千人の兵士が、最早已に武装を整へまして、木戸で御出陣を待つてをります。

関の聲が聞える。喇叭を盛んに吹鳴らす。
將校ら兵卒を従へて出て来る。

將校 天氣は快晴です。將軍 お早うございます。

皆々 將軍 お早うございます。

アント うん、よく晴れたなア。天氣が朝ッばらから活々としてゐる、恰ど功名手柄

をしようとしてゐる元氣な若い者のやうだ。……(イロスに)さうく。さ、

其方のを與れ。こつちへ。よし。……(クレオパトラに)女王、御機嫌よう

お暮しなさい、予は如何なりゆかうとも。(抱擁して接吻し)こりや武人の接吻

ですぞ。此上、ぐづくと詰らん辭儀口儀に時刻を移すのは、世の刺りや

嘲りを招くに過ぎん。これでお別れます、金鐵で鍛ひ上げた勇士らし

く。……戦ふ決心の者は予に隨從いて來い、戰場へ伴れて行つてやるから。

……さやうなら。

アントニー、イロス、將校及び兵士ら入る。

チャー お居間へお歸り遊ばしませ。

クレオ 案内をせい。……勇ましさうにして出て行かれた。此大戦役がシーザーと

の一騎打で定まるやうぢやと好いものになア！……それなら必然アントニ

ーが……けれども……(チャーミヤンらに)さ、案内を。

入る。

第五場 アレキサンドリヤ。アントニーの陣營。

喇叭鳴渡る。アントニーとイロスと出る。面上に古劍の痕を有する一兵士他の方面より出で來りてアントニーらに行き逢ふ。

兵士 神々よ、願はくは今日をしてアントニーどのに幸福なる日とならしめたまへ！

アント (兵士の面を熟視して) あゝ、あの際、おぬしと其古創とが勧めた通り、陸で戦へばよかつたになア!

兵士 あの際然うなさいましたなら、謀叛した諸國の王や今朝脱走しました彼男なんかも尙お傍にゐましたらうに。

アント 今朝脱走したのは誰れだ?

兵士 え、御存知ないのですか、始終お傍にゐた男です。エノバーパスを呼んで御覽なさい、返辭をしますまいせ。若し返辭をすりや、シーザーの陣營から「最早御家来ぢやございませぬ」と申すでせう。

アント え、エノバーパスが脱走した?

兵士 はい、シーザーの許にゐます。

イロス 手箆筒や所有品は残して行きました。

アント 彼奴が往ツちまつたか?

兵士 はい、間違はありません。

アント やい、イロス、彼奴の所有品を送り届けてやれ。然うしろ。些も残しておくな、吩咐けたぞ。一通書いてやれ……予が署名するから……機嫌よく暮せツて。將來再び主人を更るやうな目に逢はないのを予が望むと書いてやれ……あゝ、予の薄運が正直な奴までも腐らせてしまつたのだ!……早くしろ。……あゝ、エノバーパス!

入る。

第六場 アレキサンドリヤ。シーザーの陣營。

喇叭を盛んに吹き鳴らす。シーザー、アグリッパ(エノバーパスを従へて)及び他の者出る。

シーザ アグリッパ、進軍して、すぐに戦ひを始めい。予はアントニーを生捕にしたいのぢや。然う言ひ渡ししておけ。

アグリッパ かしこまりました。

シーザ 最早程なく天下泰平ぢや。けふ若しめでたく勝利を得れば、世界の三隅が何れも安んじて月桂樹の輪飾を戴くことになるのぢや。

使ひの者出る。

使者 アントニーが出陣しました。

シーザ ではアグリッパに吩咐けて來い、叛いて降服して來た奴等を陣頭に立たせろと、アントニーをして殆んど己が身に怒りを洩すやうな振舞をさするために。

エノバールマスだけを殘して皆入る。

エノバール アレキザスめ謀反をして、アントニーの用で猶太へ往きながら、あそこで

大王のヘロッドを説いて、うぬが主人のアントニーを棄て、シーザーに心を傾けさせようとした。ところがシーザーは其功勞に對して奴を絞罪にした。カニディヤス其他の脱走組は、職にだけはありついてゐるが、決して名譽も信用も得ぢやゐない。……予ア失策つたわい。後悔先に立たずだ。最早予ア決して愉快にやなれん。

シーザーの一兵士出る。

兵士 エノバールマス、アントニーからおぬしの所有品だといふものを殘らず持たせてよこしたせ、おまけに下賜品といふのが附いてゐるせ。使者は予の詰所へやつて來た。今おぬしのテントで驢馬から荷を下してるところだ。

エノバール そりや君に與るよ。

兵士 戲談いふなよ、エノバールマス。眞實の事をいつてるのだ。其持つて來た男を、君が陣營外まで送つてやつた方が可いせ。予が用がなけりや自分で

してやるんだけれども。君の許の皇帝は流石にやつぱり神王さまだね。

兵士入る。

エノバ

(太息して) 此世界のたつた一人の下劣な碌でなしは予だ、さうしてそれを自分で一番鋭く感じてゐるんだ。……おゝアントニー、お前は底の知れない寛大な人だ。予がもつと忠義を盡したら、如何報いてくれたか分らん、甚い不埒を働いてすら如是なに金の冠りを被せてくれる!……此心が裂けさうだ。若し此後悔で一思ひに裂けなけりやア一層手取早い工夫もある。が、多分此後悔で以て裂けツちまひさうだ。……お前さんに向つて戦ふことなんか! 出来るもんか! 何處か渠でも探して身を投げて死なう。思ひきり穢い處が予の死場所には相應なんだ。

悄悄々として入る。

第七場 兩陣營間の戰場。

警鐘 太鼓と喇叭。アグリッパ及び其他の者出て来る。

アグリ

退却しろ、ちつとやり過ぎた。シーザーどのも大分難戦してござる。思つたよりも敵の勢ひが強いわい。

アグリッパの同勢告入る。

警鐘 アントニー出て来る。つゞいてスカラス手を負うたる體にて出る。

スカラ

おゝ、皇帝陛下、けふは豪氣な戦ひでしたねえ! 初めッから斯ういふ鹽梅にやらかしやア、彼奴ら、何奴も此奴も、鉢巻附で逐返してくれたものを!

アント

大變に血が出てゐるぞ。

スカラ つい先刻までは創がTの字形
 でしたかね、今はHチ、（肩を繋めて）になつてまさア。
 アント （敵軍の方を見やりて） 奴等は退却す
 るわい。

スカラ どれ、糞壺へでも叩き込んでく
 れう。まだ五ヶ所や六ヶ所な
 ら創を受ける餘地が身體にあ
 らア。

イロス 出て来る。

イロス 敵は敗北しました。萬事優勢
 でしたから、とうとう大勝利と



なつたんです。

スカラ さ、一々脊中に切形を附けて、兎を捉へるやうに、奴等の首ねツコを取占め
 てくれう。逃げる奴をちよん斫るのは面白いや。

アント けふ子を勵まして、活潑に且つ勇敢に働いてくれた功勞に對しては、今に
 十二分の賞を與る。さ、従いて來い。

スカラ 跛足引き／＼お伴いたしませう。
 入る。

第八場 アレキサンドリヤの城壁前。

警鐘。アントニー進軍の體にて出る。スカラス其他つゞく。

アント
陣營際まで遂ひ返してくれた。だれか先へ走つて行つて、女王に身方の手柄を知らせろ。明日は、太陽が昇らんうちに、けふ免れた奴等の血を流してくれ。……一同御苦勞だつた。みんなが勇敢に善く戦つてくれた、めいゝが、奉公の爲といふよりは寧ろ自分の爲のやうに戦つてくれた。残らずヘクトルのやうであつた。市へ入つて女房や友達を抱いて、けふの手柄話をするがいゝ、定めし彼等が嬉し涙で、汝達の其名譽の創口に凝結つてゐる血を洗つて、さうして何度も接吻をして全癒させてくれるであらう。……(スカラスに)手を與れ。……

アントニーがスカラスと握手してゐる途端に、クレオパトラ侍女ら
を従へて出て来る。

汝の今日の働きをあゝの妖女王に話して、褒美のお言葉を戴いてやらう。……
(クレオパトラに)おゝ此世界の光の君よ、予の此兜首に搦みついて下さい。衣

服を被たまゝで、此百鍊鐵の鎧を突貫して、予の心の臓の中へ躍り込んで下さい、さうしてそれが悸々脈を搏つてる上へ勇ましく乗ツかつて下さい。
クレオ おゝ、人君の中の人君！ 古今無双の大勇士！ 貴下は莞爾笑うてお歸りか？ 此世の大係蹄を恙なく免かれて。

アント 予のナイチンゲールよ、敵の奴等は臥床へ叩き込んでくれた。え、如何だ、御覽！ 白い奴がおひゝく蒼色に混るやうになつて来たけれども、まだまだ、筋力を養ふ脳髓がある以上、若い者と互格の勝負が出来る。……(スカラスを指して)あの男を御覽なさい、特寵を以て貴女の手に接吻することを許しておやりなさい。……(スカラスに)勇士、其手へ接吻しろ。……(クレオパトラに)あの男は、けふ全然、神が人間を憎むの餘りに、假に人に化けて殺戮をするのかと思ふやうに戦つた。

クレオ おぬしに黄金の鎧を與りませう。それは或國王の持料であつたのぢや。

アント
 彼れにはそれを貰ふだけの功がある、假令それが大陽神の輦のやうに紅玉を鑲めてあらうとも……さ、手を。アレキサンドリヤ中を愉快に遡り廻らう。持主同様に創だらけになつてゐる楯を前へ擔いで行け。若し此軍隊を一人残らず宮殿内へ容れることが出来るならば、みんな一しよになつて宴を開いて、明日の運命を祝して大いに飲まう。明日はいよいよ天下分け目の戦ひだ……やい、喇叭手共、汝等は其黄銅を吹立て、市中の耳をつんざけ。太鼓のどことんと聲を合せて、天と地が一しよに反響するほどに、盛んに吹鳴らして、予たちの出掛ける前觸をしる。
 皆々入る。

第九場 シーザーの陣營

哨兵ら 番をしてゐる。

第一兵
 此時間内に代つてくれないやうだと、此方から詰所へ押掛けざるを得ない。今夜は非常に明るいなア。明日は朝の二時に陣出陣だといふせ。
 第二兵
 此間は酷い目に逢つたなア。

エノバース 憎々として出て来る。哨兵らの居るのに心附かざる體なり。

エノバ あゝ、夜よ、どうか證人になつてくれ……

第三兵 あいつは何だ？

第二兵 此方へ寄つて聽いてゐる。

エノバ お、お月さんよ、どうかお前さん證人になつて、謀反をした奴等が、一々醜名を記録される時が来たら、どうかエノバーパスがお前さんの前で後悔してゐたと然ういつて下さい！

第二兵 エノバーパスだ！

第三兵 叱！ もつと聽いてろ。

エノバ お、悒鬱病の源因と崇められてござる神さま、夜の濕つぽい毒氣を予の身體へ灑ぎかけて下さい、予の本心に叛いてゐる此命が一刻も早くなくなるやうに。此心の臓をば、石のやうに頑固な予の歪曲つた根性へ叩きつけて下さい、心の臓はとうに後悔でぼろ／＼になつてゐるから、すぐに粉砕になつて、悪い者が根絶しにならうから。あ、予の二心の卑劣さとは全然反對に、立派な、高尚なアントニーどの、お前さんだけは何卒予を堪忍して下さい、しかし世間は予の名を、主人を棄て、逃げた者の中へ書入れ

といてくれ。……おゝアントニー！ おゝアントニー！

エノバーパス 死す。

第二兵 何とか言つて見よう。

第一兵 言はせるやうにしよう、シーザーどのに關したことを言ふかも知れない。

第三兵 然うしよう。……(倒れたるエノバーパスの方をすかし見て)が、眠てるやうだせ。

第一兵 氣絶してゐるらしい。眠るためにしちや今の祈禱は變挺だつたからなア。

第二兵 (エノバーパスの傍らへ歩み寄りて)おい、起きたまへ、おい。おい、口を利きたまへ。

第二兵 おい、君、おい！

第一兵 とうに死神に捉ツちまつたんだ。……

遠くにて太鼓の音が聞ゆる。

おや！ 厳しい太鼓の音が眠てる者を起しはじめた。……これを詰所まで

擔いでゆかう、こりや身分のある男なんだから……もう時間過だ。

第二兵 さア、それぢや。まだ生きるかも知れんよ。

死骸をかつぎ上げて入る。

第十場 兩陣營の間の地。

アントニーとスカラスと軍隊を従へて出る。

アント 敵は今日は海戦の準備をしてゐる。陸戦は氣に入らないのだ。

スカラ どちらもでせう。

アント 奴等め火の中か空氣の中かで戦へば可い、何處へでも往つて敵手になつてやる。……それはさうと、斯ういふ手順だ。歩兵らは市の直傍の丘で予を

待つてゐる筈だ。海軍へも號令を下しておいた、奴等は最早港を出た。進軍しろ、彼處へ往きや敵の軍装や行動が十分に見えるだらう。入る。

第十一場 同處の他の方面。

シーザーと其軍隊と出る。

シーザ 先方から爲かけん以上は、身方は陸では活動はんことにしよう。多分爲かけては來んであらう、何故なれば、敵の精英は艦隊の方へ向けられてゐるから……谷の方へ。最も便宜な地を占領せい。入る。

第十二場 同處の他の方面。

アントニーとスカラスと出る。

アント 　まだ接戦しないわい。……あの松の邊から見たら悉皆見えるだらう。如何な様子だか、直に知らせに来てやる。

アントニー入る。

スカラ 　燕がクレオパトラの御座船の帆の中へ巢を掛けた。占者に訊いても、知らん、解らんとばかり言つて、陰鬱しい顔をして、知つてゐても公言し得ない。アントニーは、今勇敢かと思ふと、忽ちまた沮喪してしまふ、……運と不運とが錯交になるに随つて、現在に尙望を懸けて見たり、未來の事を恐れて見たり。

警鐘遠く聞ゆる、激しき海戦が始まつてゐるらしく。
アントニー失望の體にて出て来る。

アント 　すつかり駄目だ。……あの卑劣な埃及女めがおとしいれやがつたんだ。身方の艦隊は悉皆敵へ降参した、さうして彼處で帽子を抛上げたり何かして、久しぶりで逢つた親友のやうに、一しよに祝盃を擧げてゐる。……薄情極まる淫婦め！ あの青二才へ子を賣つたのは汝だ。憎いと思ふのは汝ばかりだ。逃る奴はみんな逃げる。あの魔術使にさへ報復をすりやア予は最早心残りはないんだから。一同に逃げろと言へ。往け……

スカラス入る。

お、太陽よ、お前の昇るのを、予は最早見ないだらう。アントニーは今此處で運命と別れるのだ。今恰ど手を揮り合ふのだ。……こんなにまでなツちまつたのか？ 犬のやうに予の跟に附廻つてゐた奴等までが、言ふまゝ

に望を叶へてやつた奴等までが、今は溶解けた菓子のような甘い言葉を、花盛のシーザーに灑ぎかけてゐる。さうして此亭々と彼等の上に聲えてゐた松の木は、皮を剥れてしまふのだ。予は裏切をされツちまつた。おゝ、あの薄情な埃及女め！ あの怖い魔法使ひめ……あいつの眼が予の全軍を引張出しもすれば引戻しもしたのだ、あいつの胸は予の冠冕でもあつた、予の目的でもあつたのだ……あいつめが、女野師の本體を現しやアがつて、手品で予の目を瞞著して、予を死地におとしいれやアがつたのだ……（奥に向ひて）やい、イロス、イロス！……

クレオパトラ 出て来る。

あゝ、うぬ、魔法使ひめ！ 去ツちまへ！

クレオ

何故そのやうにお憎しみなさるのぢや？

アント

消えツちまへ。ぐづくしてゐると相當の處分をするぞ、シーザーの凱旋

の飾り物が不具になるぞ。彼奴に伴れてゆかれて、叫立てる平民共の目先へ厠上げにされるが可い。女全體の最大恥辱は私でござると、彼奴の凱旋車に附隨して往け。無類の化物でゝもあるやうに、一文二文の見料で見せ物にせられて、辛抱強いオクテギヤが、豫て延して待つてゐる其爪で其面を引搔かれる……

クレオパトラ 入る。

さうだ、去ツちまふが可い、命が惜しけりやア。が、或は、予の怒に觸れて、今一思ひに死んだ方が優しかも知れんぞ、幾たびも死ぬやうな思ひをするのをまぬかれるから……（奥に向ひて）やい、イロス！……予はネッサスの肌衣を被せられたのだ。先祖のハーキュリスよ、お前の憤激の爲方を教へてくれ。リカスの奴を新月の角へ投げ掛けさせてくれ。二つと無い重い棍棒を握つたお前の手で、立派な血を享けた此身を打殺して下さい……あの

魔法使ひめ、汝、生しちやおかんど。羅馬の青二才へ予を賣りやアがつたので、それで予が亡びるのだ。汝、その返報に殺してやる。……（奥に向ひて）イロス、やい！

入る。

第十三場 アレキサンドリヤ。クレオパトラの宮殿。

クレオパトラ、チャーミヤン、アイラス及びマーディヤン出て来る。

クレオ 助けてくれ〜！ おゝ、まるで氣ちがひぢや、楯を奪ひあうたテラモンどころぢやない。セッサリーの野猪ぢやとても、あのやうに荒れ狂うたことはあるまい。

チャー ぢや、早うお廟へ！ さうして錠を下して、お薨去れ遊ばしたといふ知らせを申してお遣り遊ばせ。靈魂が肉體から引分けられる時よりも、偉いお方が其お立派であつた御身分から引離されなざる時の方が、怖しいと申します。

クレオ ぢや、早う廟へ！……マーディヤン、さ、汝往つて、予は自害したというてくれ。最後の時に、「アントニーどの」というたというてくれ、哀れさうな風にいうてくれい。さ、早う、マーディヤン。さうしてそれを聽かれた時の様子を歸つて来て知らしてくれ。……さ、早う廟へ！

入る。

第十四場 同處。他の一室。

アントニーとイロスと出る。

アント　イロス、予は尙予に見えるか？

イロス　へい、見えます。

アント　どうかすると、雲が龍のやうに見えることがある。熊や獅子に見えることもある、天守の付いた城だの、肉叉形の山だの、落ちかゝつてゐる大岩だの、木が生えて蒼みがゝつてゐる岬だのに見える雲が、ふはりくと下界に向つて漂つて、暫く人目を欺くことがある。然ういふものを汝見たことがあるだらう。あれらは夕暮時の見せ物だ、山車だ。

イロス　へい、ございます。

アント　今馬と見えたものが、忽ちのうちにそれが消えて、朦朧となつてしまふ、水が水の中で消えるやうに。

イロス　さやうでございます。

アント　なア、イロスよ、汝の首將が、正に恰どそんなものなんだ。予は今此處に斯うしてアントニーでゐる、けれども此形を此儘保つてゐるとは出来ないんだ。予が戦争をしたのは埃及女王の爲であつたのだ。ところが其女王が……予はあの女の心は予の有だと思つてゐた、予の心は彼女が自分の有にしてしまつてゐるのだから……予の心が予の有であつた間は、（今は失くしてしまつたけれど）天下數百萬の人望を一身に集めてゐたのであつたに……イロス、あの女がシーザーと同類になつて、骨牌をごまかして、予の榮譽を敵の戦利品に搔奪はせてしまつた……泣くな、いゝや、泣いてくれるな、イロス。人間には自分で自分を片附ける途が残されてある……

マーティヤン出る。

お、汝の主人の卑劣女めが、予の武器を奪ツちまやアがつた。

マーティ 　いゝえ、それはお間違でございます。女王は貴下をお愛し申してをられま
したので、お二人の利害は全くお一つでござりました。

アント 　退れ、尾籠な宦官め。黙れ！　あの女は裏切をしたのだから、死刑に處す
る。

マーティ 　人は二度死ぬわけには参りません。女王は最早其務を果されました。お
命じ遊ばさうと思召すことは、お望通りに濟んでをります。女王が最期に
申されたのは「アントニーどの！　立派なくアントニーどの！」といふ
言葉でござりましたが、引裂くやうな呻き聲の爲に、それが途中で裂れま
して、二度目のアントニーといふお言葉を半分おつしやつて、つまり貴下
のお名前を半分だけお心にお埋めなされたまゝで、お薨去れになりました。

アント 　ぢや死亡つたのか？

マーティ 　お薨去りなされました。

アント 　イロスよ、鎧を脱がせてくれ。長い一日の爲事がすんでしまつた、もう予
は眠なければならん。(マーティヤンに)無事に歸ることを許されるのを過分な
骨折料だと思へ。往け……

マーティヤン 　入る。

脱れ、脱つてくれ。アジャックスの七枚皮の楯だつて、此心から來る大打撃
にこたへられる筈はない。お、裂けツちまへ、此脇腹！　心の臓よ、けふ
は此肋骨よりも強くなつて、此脆い形體を突碎いてくれ！……イロス、
早く。もう武人ぢやないわい。(鎧に)疵だらけの代物め、さ。汝は
立派な御用を勤めて來たんだ……暫く彼方へ往つてゐてくれ……

イロス 　入る。

今に追ひ附く、クレオパトラ、さうして泣いて詫をする。是非然うする、此上生延びてゐるのは苛責だから。炬火が消えた以上は、臥ろ、もう彷徨くには及ばん。此上働くのは無益だ。生中力を用ふれば力の妨げとなるばかりだ。ぢや、これで奥印を捺して萬事終結としよう。……(奥に向ひて)イロス！……さ、女王、……(又奥に向ひて)イロス！……一しよに往く、待て、くれ。千草の花の床に臥る冥府へ往つて、手に手を取つて、愉快さうに振舞つて、幽霊共に目を圓くさせてくれう。ダイドーとイニヤスとに附廻つてゐた奴等を悉皆吾徒の方へ引張寄せてしまはう。……(奥に向ひて)やい、イロス！

イロス 出る。

イロス 何御用でございます？

アント クレオパトラが死んだ以上は、生きてゐるのは不名譽だ、神々は予の卑怯

をお憎しみあるに相違ない。劍で此世界を四つ切にし、大海原の背中へ軍艦の都をこしらへた予が、一婦女子の勇氣さへもないといつては恥ツかきだ、敵のシーザーに、「予は予の心に克つたぞ」と自殺して見せて鼻明せたあの女よりも劣つた根性だ。……イロスよ、汝は豫て、予の危急の場合には……今が即ちそれだが……若し予の身に怖い恥辱が差迫つた場合には、命に應じて直ちに予を殺すといふことを誓約してゐる。さ、やつてくれ。其時が來たんだ。予を刺すのは、予を殺すのではなくって、シーザーを破るのだ。そんな眞蒼な顔をするな。

イロス とんでもないことでございます！ あのパーシャ人オラら抛箭の規ひを誤つて、如何も爲得なかつた貴下でございます、私に如何して出来ませう！

アント イロスよ、汝は羅馬の大街の牖に立つて現在の主人が、斯う手を組合せて、懲しめられて、首を垂れて、肉に食入る辱めに顔をば得擧げず、好運なシ

「ザーの凱旋車に汚目々々随いて行くのを見ようといふのか？ 卑怯者

といふ烙印が捺されるも同様な其辱めを見ようといふのか？

イロス 決してさうぢやございませぬ。

アント ぢや、やつてくれ。予の苦みは傷を受けなければ癒らないのだ。其劍を

抜け、國の爲に長らく忠義を盡した其劍を抜け。

イロス あゝ、どうかそれは御免なすつて！

アント 汝を自由民にしてやつた時に、汝は、命せられ、ば必ず爲ると誓つたぢやア
ないか？ すぐにやれ。やらなければ、今日までの忠義も偶然だと見做
すぞ。……抜いて突け。

イロス ぢや、お顔を、世界中の尊貴いものゝ宿つてゐるやうな其お顔を、そつちへ
向けてゐて下さいまし。

アント (顔をそむけて) そら！

イロス 劍を抜きました。

アント ぢや、すぐに抜いた目的を實行しろ。

イロス 御主人さま、御大將さま、皇帝さま、無慚なことをします前に、お暇乞をさ
せて下さいまし。

アント もつともだ。……さやうなら。

イロス 御大將さま、さやうなら。……やりますか！

アント さア。

イロス ぢや、さア。……

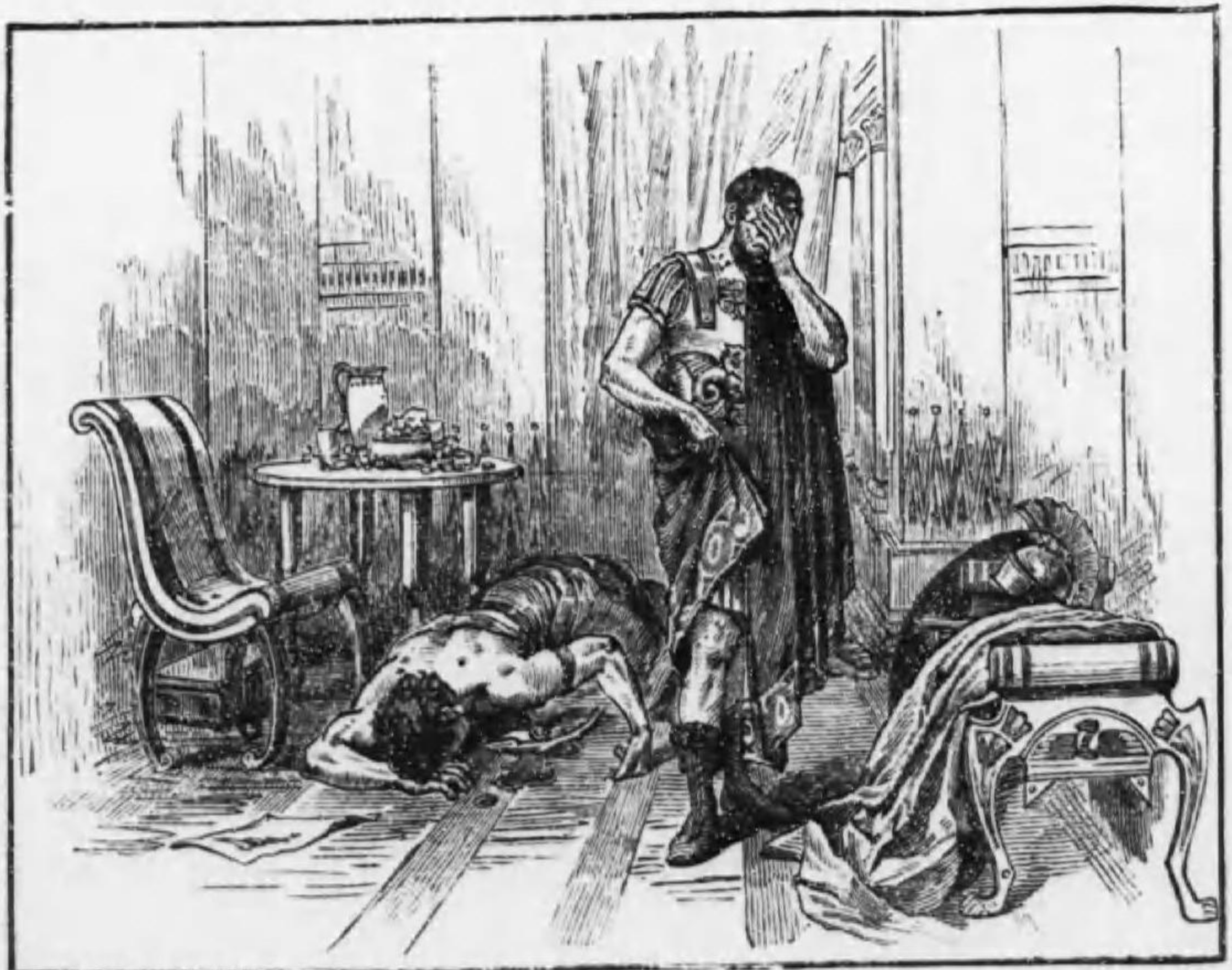
イロス 我劍の上へ走りかゝりて自分の胸を刺す。

かうして予はアントニーの死なつしやるのを見る悲みを免れるのだ。

イロス 倒れて死す。

アント (太息して) 予よりもずつと立派な奴だ！ あゝ勇敢なイロスよ、汝は、予

のみづから爲べきことで、汝の爲得なかつたことを予に教へてゐる。女王とイロスは、共に見事な教訓を垂れて、予を乗越して美名を記録に残した。が、予も死に赴くこと新郎が情人の聞へ赴くが如くにして、死を急がう。……ちや、さア。イロスよ、汝の弟子になつて死ぬぞ。斯うするのは……（と劍の上へ倒れつゝ汝に學つたのだ。……や！死なれんか？ 死なれないか？



……やい、衛兵ども、あゝ、予をやっつけてくれ！

ダアセタスと衛兵ら急いで出て来る。

第一衛 今の聲は何だ？

アント おい、汝たち、予はやりぞこなつたのだ。あゝ、頼む、やりかけたことを爲果せてくれ。

第二衛 あゝ、明星が地に落ちてしまつた。

第一衛 世の終りが来たんだ。

皆々 あゝ情ないことだ！

アント 予を愛する者は予を殺してくれ。

第一衛 わしは御免だ。

第二衛 おれも御免だ。

第三衛 だれだつて御免だ。

衛兵ら皆入る。

ダアセ (冷然と半分獨語のやうに) 敗軍の上の自殺だから附いてゐた者も逃げてしまふ。此知らせと一しよに此劍をシーザーに見せりや、取入るに都合がいゝだらう。

アントニーの劍を奪ふ。

ダイオメデイス 女王の命を受けて使者に来る。

ダイオ アントニーどのは、何處に？

ダア 其處に、つい其處に。

ダイイ 生きてござるかね？……おい、何故返辭をしないんだ？

ダアセタス それにかまはず、劍を携へて急ぎ入る。

アント おい、ダイオメデイス、そこにゐるのか？ おぬしの劍を抜いて、死なれるやうに突いてくれ。

ダイオ 皇帝、私は主人クレオパトラの命を受けて参りましたのでございます。

アント 何時よこしたのだ？

ダイオ 只今です。

アント 女王は何處にゐる？

ダイオ 錠を下してお廟にお籠りでございます。女王には、或は斯んな事が起りはせんかと、蟲が知らせて恐れてをられました。實は女王には、シーザーと結托したといふお疑ひを受けられましたので……それは全く無根なのでございますが……到底お怒りを解く見込が無いと絶望の餘り、自殺のお知らせを御許へ申送られることになりましたのです、が、萬一の事があつてはと、改めて私を事實の御報告に差遣されましたのでございますが、あゝどうやら参りやうが遅かつたかと存じます。

アント おそかつた、ダイオメデイス。衛兵共を呼んで下さい。

ダイオ おい／＼、皇帝の護衛兵たち！ おい／＼護衛兵々々々！ くら、御主君のお召ですぞ！

アントニーの衛兵ら多勢出る。

アント おい、汝たち、クレオパトラの居る處へ擔いでいつてくれ。これが汝たちに予が吩咐ける最後の奉公だ。

第一衛 あゝ、情ないこつてございます、いつまでも忠義を爲ようと思つてゐますものを、先へ往つておしまひなさいます。

皆々 あゝ情ないこつた！

アント これ／＼、そんなに悲しがると、あの意地悪の運命めが好い氣になる。奴が予たちを懲しめようとする時に、平氣でそれを受流してゐりや、それが取りも直さず奴を懲めることになるんだ。……擔ぎ上げてくれ。たび／＼予が汝たちを先導した。けふは、汝たち、予を伴れてつてくれ。さうすり

や一同に禮を言ふ。

アントニーを擔ぎて入る。

第十五場 同處。靈廟。

クレオパトラ、チャーミヤン、アイラス、其他の侍女らと共に高き處(高二重)に出る。

クレオ おゝチャーミヤン、予はもう決して此處を出ないだらうよ。

チャー マア／＼、お心をお慰め遊ばしませ。

クレオ いゝえもう決して出ないだらう。どのやうな怖いこと、不思議なことでも來るが可い、もう／＼予は慰めなんか欲しうない。原因が大きいのぢやも

の、悲しみも歎きも、それに相應して大きうなければならん。……

平舞臺へダイオメイス出る。それを見附けて、

どうぢやや？ 死亡つたか？

ダイオ

御危篤ではございますが、まだ御存命でございます。御廟の彼方側から御覽遊ばされませ。護衛兵たちがお伴して参りました。

平舞臺へアントニー衛兵らに擔がれて出る。

クレオ

お、太陽よ、お前が乗つてゐる其圓座を今日限り焼きすてしまへ！ 夜となり晝となる世界の隅々隈々も、今日限り暗黒となつてしまへ！……お、アントニー、アントニー、アントニー……手傳つとくれ、チャーミヤン、さ、手傳つとくれ、アイラス……手傳つとくれ。下にゐる人たちも手傳つとくれ。そのまゝで此處へ引上げさしとくれ。

アント

しづかに！……アントニーはシーザーの武勇に負けたのぢやアない、自分で自分に打勝つたのだ。

で自分に打勝つたのだ。

クレオ

さうなうてはならん、アントニーに勝つ者はアントニーどの、外にあらう筈がない。けれども、あゝ、情ないことぢや！

アント

埃及よ、予は最早死ぬのだ、もう直に死ぬのだ。只もう暫時命が欲しいといふのは、今までに幾千たびとなく貴女と接吻を取交したが、もう一度最後の接吻を此處で貴女の唇に残したい。

クレオ

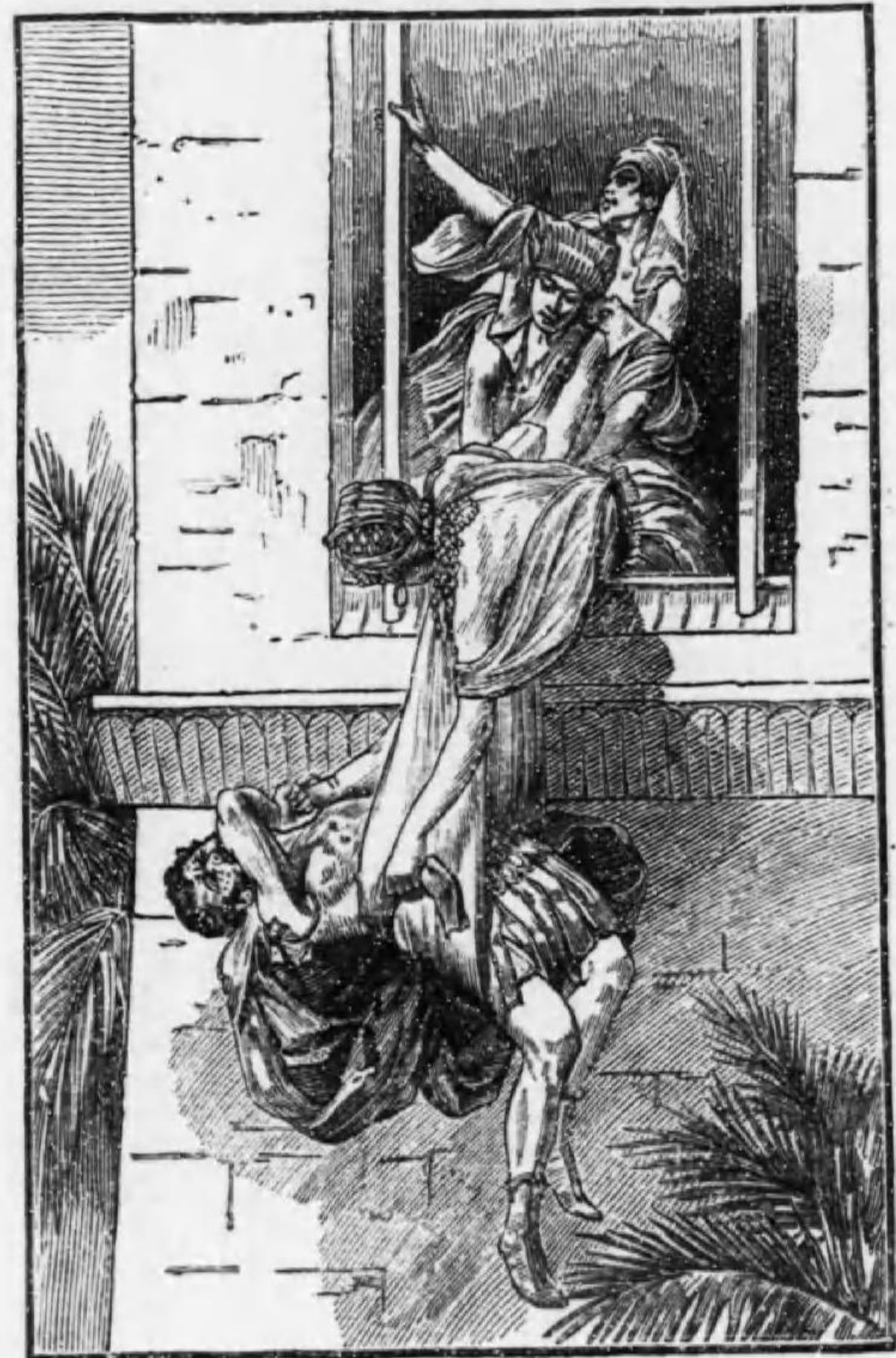
あゝ、そこへ往きたいけれども予は能う往かん……どうぞ堪忍して下さい……そこへ往つたなら捉へられるかも知れん。何の彼の好運のシーザアめの凱旋の飾物なんぞになるものか！ 短剣か毒藥か蝮かに鋒か、針か效力がある以上は予は大丈夫ぢや。あのおとなしげな、無口な、賢女めかす奥方のオクテギヤなんぞに凝然と見下されて恥を搔くやうなことは決してせん。さ、ここへ來て下さい、アントニー……(侍女らに)手傳つとくれ、

女ども、…是非とも此處へお前を引揚げろのぢや。…下の人たちも手傳

つとくれ。

アント お、早く。で無い

と死んでしまふ。



アントニーを載せる。と、上にて一同手を揃へて、綱引のやうにしてそれを引揚げようと努力する。

クレオパトラ侍
女らと共に
高二重より
或綱具を抛
下す。下に
る者共その
綱具の中へ

クレオ こりやまア面白いことぢや！ 御前はまア何といふ重たいお人ぢや！

あんまり歎いたので力がみんな脱けてしまつた、それで尙と重たいのぢや。予に若しジューノーの神通力がありや、あの翼強の使者神に吩咐けて、すぐとお前を伴れて来て神王と並ばせて見るものを…せめて、もう些と此方へ来て下さい。…心でばかり願うてゐる者は愚か者ぢや、…お、来て下さい、もつとくくく…

侍女ら一同協力してアントニーを二重へ引揚げろ。

嬉しいく、よう来て下された！ (アントニーを抱擁して) 死ぬのならお前の命の宿であつた此胸の傍でお死になさい。接吻で蘇生つて下さい。若しもさういふ力があるものなら、此唇を…斯うしてく (と幾たびも接吻しつゝ) 消耗してしまひたい。

皆々 あゝお氣の毒な、笑止な！

アント あゝ、埃及よ、もう予は直に死にさうだ 何か酒を飲ませて、少し物をいはせて下さい。

クレオ いゝえ、予に言はせて下さい あの輕薄な運命めを罵倒してやりたい、あの虚つきの氣まゝ者めが、これを聞いて腹を立て、我れと我手で運の車の輪を破壊してしまふほどに。

アント 女王よ、只一言。シーザーに頼んで安全と名譽とを保護してお貰ひなさい。おゝ！

クレオ その二つは決してししよにはならん。

アント まアお聴きなさい。シーザーの左右の者ではプロキュレイヤスの外はお信じなさるな。

クレオ 予の信するのは此手と此心ばかりぢや。シーザーの左右の者なんぞに用はない。

アント 末路の淺ましさを歎いたり悲しんだりして下さるな。寧ろ予の過去の好運を回想して心を慰めて下さい、予は世界の最大の君主、最大の英傑と崇められてゐたのだ。死に際しても卑劣な死にやうはしない、卑怯に國の者へ兇を脱ぎはしない……羅馬人が羅馬人と勇敢に戦つて敗死したんだ……

……もう今魂が出て行く。もう物が言へない。

クレオ 人間中の最ち立派な人、もうお前死ぬるのか？ 予を棄て、逝くのか？

此つまらん世の中に、お前がゐねば豚小屋も同然の此世に、予ばかり残るのか？……

アントニー 瞑目する。

おゝ、御覽、女ども、世界の冠冕が溶けてしまつた。……御前！……おゝ、兵事の花飾が萎れてしまつた！ 武人の旗印が倒れてしまつた！ 最早大人も女子供も際立つた區別はない。段ちがひといふことはなうなつてし

まうた、目を驚すものというては、最早何も無い、此照臨する月の下に。

クレオパトラ 眩暈してアントニーの上へ倒れる。皆々驚き介抱する。

チャー お、お氣をお鎮め遊ばしませ。

アイラ こちの御前さまもお薨去れ遊ばしたのぢや。

チャー 御前！

アイラ 上さま！

チャー お、上さま〜〜！

アイラ 埃及さま、皇后さま！

クレオパトラ 漸く我に復りかける。

チャー 叱、叱、アイラス！

クレオ もう予は皇后ぢやない、牛乳しぼりの農家娘と、情に於て何の變つたこと

もない只の女ぢや。意地の悪い神々たちへ予の笏を叩きつけて、お前らが予の貴重の寶石を盗まなんだ間は、此人間界がお前らの世界と同等であつたものと言つてやる事が出来るものならなア。あ、もう何もかも悉皆つまらない。堪忍は愚物のする事、短氣は狂犬に相應したことぢや。して見りや、此方から逆寄に躍り込んで、死の祕密を探つたからというて、それが罪惡にならう筈はない。…(侍女らに)どうしたのぢや、女ども？ え、え！ 泣くには及ばん！ まあ、チャーミヤン、おのし如何したのぢや！ これさ、子供たち！…あ、女ども、女ども、御覽、わたしたちの貴重な燈が燃えきつてしまつた、消えてしまつた！…これさ、みんなしつかりせい。…まづ埋葬をして、それから立派な、見事な事を…羅馬の高尙な式通りに…死神もわたしらを取るのをば名譽ぢやと思ふやうに、實行しよう。…さ、彼方へ…その偉大な精神の容器が最早冷くなつてしまつた。

あゝ、女どもや、女どもや！ さア、さア。わたしたちには、最早決心とて
早い最期との外に、身方はない。

クレオパトラにつゞきて二重の者共アントニーの死骸を擔荷ひつ
ゝ入る。

*
* * * * *
* * * * *

第五幕

第一場 アレキサンドリヤ。シーザーの陣營。

シーザー、アグリッパ、ドラメラ、メシナス、ガラス、プロキュレイヤス 及び 其他の
軍事會議員ら出て来る。

シーザ ドラメラ、彼れの許へ往つて降服を勧めて下さい。かやうに敗北してゐな
がら躊躇してゐるのは滑稽に類するとお言ひなさい。
ドラベ 承知しました。

ドラベラ 入る。

ダアセタス、アントニーの剣を携へて出る。

シーザ 如何したのぢやそれは？ 其方は何者ぢや、何故さやうな風體をして推參

しをつたのぢや？

ダアセ

私はマーク・アントニーに仕へてをりましたダアセタスと申す者でござい
ます。アントニーは、誠情を傾けて奉公するに足る最も立派な人でありま
したので、其存命中は、私、彼れを主人といたして、彼れの敵と戦ふ爲に此
一命を献げてをりました。御貴殿が若し私をお用ひ下さるやうであれば、
アントニーに盡した通りにシーザードのに盡します。お用ひ下さらぬと
あれば、直さま一命をお渡し爲します。

シーザ

何を申してをるのぢや？

ダアセ

シーザード閣下、アントニーは死亡いたしましたのです。

シーザ

彼れほどの偉大なものが破滅したならば、何かもつと偉大な音響が聞えべ
きぢや。此圓い世界が、其震動で、平和な街頭へ獅子の群を轉し出し、市民
らをば却つて其洞の中へ抛り込むやうなことも出来すべきぢや。アントニ
ーの死は一個人の運命たるに止まらん。彼れが名には世界の半分が懸つ
てゐる。

ダアセ

シーザードの、アントニーは全く亡りました。死刑に處せられたのでもな
く、暗殺されたのでもなく、美名を後世に留むるに足る勇氣を以て、おのが
手で其心の臓を割いたのでござります。……これが其創口から奪つて來ま
した彼れの劍でござります。御覽なさい、彼れの勇敢な鮮血で汚れてゐる
まゝでござります。

列席の武人ら 愀然として頭を垂れる。

シーザ

あゝ、諸君もお歎きなさるか？ さうあるべきぢや、これは全く王者の眼

をも濕すべき知らせぢや。

メシナ (衆を顧みて) 不徳と徳とが等分になつてゐた人だ。

アグリ 曾てあれほどの傑物が人間界を渡つたことはない。が、神々よ、お前さんがたは、兎角何か知ら疵を混せて、さうして人間を作成へようとしてござ

るやうだ。……(同僚らに傍白) シーザーどのが感動してをられる。

メシナ (アグリツバへ傍白) 斯ういふ立派な鏡を前へ置かれては、自分を見ないわけに

はゆくまい。

シーザ (半分獨自のやうに) おゝアントニー! 予はお前を追窮して竟にこゝに到らし

めたのぢや。が、人間は己が身を病の爲に切裂くこともある。予が斯ういふ日没をお前に見せるか、又は予がお前の日没を見るか、是非どちらかをまぬかれないのであつた。廣い世界も吾々二頭を同棲させるには足らん

のぢや。けれども尙予は心の臓の血にも劣らぬ貴い涙を流して哀悼す

る、予の兄弟たるお前が、あらゆる高尚な仕事の競争者たり、帝國に於ける同僚たり、戰場に於ける友でもあり、同志でもあつたお前が、予の此體の腕でもあり、又常に予の心に火を點じた心の臓でもあつたお前が……お互ひの運の星が、どうしても調和せんで、共に並び立つことを許さんので……竟に如是なことになつてしまつたのを哀悼する。……なア諸君、……いや、いづれまた一層好い機にお話ししよう。……

埃及人 出る。

あの男、何か用ありげな顔附をしてゐる。訊いて見よう。……何處から参つたり?

埃及人 今は只一個の哀れな埃及人たるに過ぎん主人女王は、只一ヶ所のみ其所領として取残されをりまする靈廟内に閉籠りまして、閣下の御意を待つてをられまする、嚴命次第で如何やうにも覺悟しようと致しをられまする。

シーザ 安心なさるやうに女王に傳へるがよい。程なく此方より使者を以て申し入れるが、吾々は飽迄も女王に對しては懇切に敬意を表さうといたしてをる。シーザーの性質として、決して不仁粗暴な振舞は能い致さんと傳へるがよい。

埃及人 では、御機嫌よろしう！

埃及人 埃及人入る。

シーザ こゝへ、プロキュレイヤス……お前往つて、女王に、決して恥辱は與へんといふてくれ。慰藉の爲に必要な限りは、何なりと與へるがよい、でないといふ見識高い女だけに、何か思ひ切つた事をして、此方の目的を破るかも知れん。彼女を生かして羅馬へ伴れてゆくのが凱旋の此上もない榮譽ぢやかならう。往け、さうして大急ぎで其返事と彼女の様子とを聞かしてくれ。
プロキュ 承知しました。

プロキュレイヤス 入る。

シーザ ガラス、おのしも一しよに往け……

ガラス 入る。

ドラベラは何處にゐる？ プロキュレイヤスの副役をせい。

皆々 ドラベラ！

シーザ すて、おけ。今思ひ出した、他の用が吩咐けてあつた。そのうちに濟して來るであらう……さ、予の天幕まで來てくれ、彼處で、此度の軍は全く據なくしたことで、どの位穩かに、手柔かに書面で談判を行つたか知れんといふことを説明しよう。予と一しよに來て、此點に關しての證明を聞いて下さい。

第二場 アレキサンドリヤ。靈廟内の一室。

クレオパトラ、チャーミヤン及びアイラス 出る。

クレオ 予の此零落が現在よりも優つた生活へ予を導いてくれる。シーザーになるのは詰らんことぢや。あの男は運命の神ではない、運命に使役される一の役員、一の奴僕たるに過ぎんのぢや。しかし他の一切を一舉にして斷絶つてしまふやうな事を行ふのは立派なことぢや。其一舉であらゆる事件を防ぎ、あらゆる變化を止めることが出来る。後は眠るばかり、飲食の必要はない、乞食をもシーザーをも養ふあの乳首などを舐るには及ばん。

靈廟の門口へプロキユレイヤス、ガラス及び兵士ら出る。

プロキユ シーザーから埃及女王へ御挨拶を申し送られます。正當な御要求は、何なりとも、篤とお考への上申し出でられますやうにとのことでござります。

クレオ 名前は何と申される?

プロキユ プロキユレイヤスと申す者でござります。

クレオ アントニーが、豫て其許の名前を申されて、信賴すべき人ぢやと言ひおかれた、併し欺かれるのを今は必ずしも厭はん身となつて見れば、信賴する必要もない。若し御主人が、一國の女王たる者をして物乞をさせうとせられるならば、……歸つて行つてお傳へなさい……女王は威儀を保つ必要上一王國以下の品を請求いたすことは出来んから、御攻略あつた埃及全國を我子の爲に頂戴したい、それは取りも直さず、曾て我有であつたのを戴くのであるが、予はありがたく跪いてお受けをするであらう。

プロキユ 御安心なさりませ。明君の手中にお落ちになつたのでありますから、決し

て御心配には及びません。御遠慮なく我等の主君へ御申込あらせられるがよろしい。主君は寛仁大度で、溢れるほどの恩恵を必要を覺ゆる者へ下されまします。殿下が快く御依頼なさる由を早速主君へ報告いたします。主君は勝利者でありますけれども、跪いて恩恵を乞はれば、助手を備うてまでも慈悲を施さうとしてをられます。

クレオ どうぞ歸つて傳へて下さい、予は好運なシーザーどの、御家來である、御手に入つた大権は悉く献上いたします。刻々に服従といふことを習ひまして、喜んで拜謁するやうにいたしませうと。

プロキユ その通りに申し傳へませう。御心配なさりますな、此御境遇を助長せられました御當人が深くお氣の毒がつてをられますから。

ガラス (プロキユレイヤスに傍白) ね、不意にやつつけりや何の事もないよ……

此時プロキユレイヤスは衛兵數人と共に、突然窓口(高二重)へ梯を

懸けて、クレオパトラ主従の心附かぬうちに、靈廟を攀ぢ登り、やがて不意にクレオパトラらの背後へ近づく。衛兵の或者は此途端に門を脱して廟の門を開く。

(プロキユレイヤスに) お守りなさい、シーザーが見えるまで。

ガラス 入る。兵士ら多勢廟内へ侵入する。
侍女ら始めて心附きて駭き騒ぐ。

アイラ あれ、女王さま!

チャー おゝクレオパトラさま! 貴女は捕虜におなり遊ばしましたのです!

クレオ さ、早う、一思ひに。

短剣を抜きて自害せんとする。

プロキユ (止めて) ま、お待ちなさい、まゝ……(劍を奪ひて) 御自身でそんなことをなすつてはいけません、裏切をするのぢやありません、お助け申してをるので

す。

クレオ え、死ぬことも出来んか？ 犬でさへ死んで苦しみをまぬかれるのに！

プロキユ クレオバトラどの、御自害なぞをなされて、主人の折角の寛大を無に遊ばすな。主人の高義を實行させて、世間にお見せなさいまし、貴女がお薨去れになると、それが無になります。

クレオ

死の神よ、お前は何處にゐるのぢや？ さ、早うこゝへ来てくれい！ さ、

早う！ 嬰兒や乞食を多勢殺すよりはすつと優しい女王をば殺してく

れ！

プロキユ

ま、ま、おしづまりなさい！

クレオ

予は最早何も食はんぞ、最早何も飲まんぞ。餘計なことをも言はにやなら

んといふなら、最早決して眠りもせんぞよ。此肉體をば打毀してしまふ、

シーザーめが如何しをらうとも。これ、予は、其方の主人方なぞへ伴れて

ゆかれて、羽がひじめにされて、じつとしてはゐませんぞよ。あの無愛相

な、眞面目くさつたオクテギヤなぞに睨み附けられてはゐませんぞよ。彼

奴等は予を擔ぎ上げて、あの口ぎたなく號き叫ぶ羅馬の群衆共に見せよう

とするのであらう！ まだしも埃及の泥渠の方が上品な死場所ぢや！ い

つその事予をナイル河の泥の中へ赤裸々にして臥して、さうしてあの水蠅

共に、卵を生ませて、怖しく腐り爛せてくれい！ いつそのこと予の國の

大三稜塔を絞罪臺に使つて、予を鎖で吊下げてくれい！

プロキユ 貴女は、シーザーが夢にも思つてをられんことを想像して、お獨りで怖し

がつていらせられるのです。

ドラマメラ 出る。

ドラベ

プロキユレイヤス、貴殿のなされたことをシーザーがお聞きになつて、私を

お遣しになりました。女王は私が警護いたします。

プロキユ ドラベラ、それは有りがたい。どうか女王を鄭重に……(クレオマトラに)何なりとも、御意をシーザーへ傳へませう、若し私にお使ひをお命じでござりまするならば。

クレオ 予は生きてはをらんぞとお言ひ。

プロキユレイヤス 兵士らに従へて入る。

ドラベ 大皇后陛下、私のことをお聞き及びでござりまするか？

クレオ どうであつたか。

ドラベ 必ず御存知の筈でございます。

クレオ 何を聞いてゐようと、知つてゐようと、關うたことはない……子供や女が、

見た夢の話をすると、おのしたちは毎も笑ふ。さうであらうが？

ドラベ と、おほせられまするのは？

クレオ (物にあこがる、やうに)予はアントニーといふ皇帝が實際ゐたのを夢に見た。

あゝ、もう一度あゝいふ風に眠つて、あゝいふ人をついもう一度夢に見たい！

トラベ え……憚りながら……

クレオ (夢を見てゐるやうなる思入にて) 彼人の顔は天のやうであつた。太陽も其處に輝

いてゐれば、月も其處を運つてゐて、此小さい地球をば照してゐた。

ドラベ え……女王陛下……

クレオ 彼人は兩脚で大海原を跨いでゐた。高く擧げた彼人の手は此世界の盛飾

であつた。其聲は、あの音楽を奏するあらゆる天體のと同じ性質のもので

あつた……それは氣に入つた者に物を言ふ時……が、怖がらせて、さうし

て大地をも震動させようと思ふ時には、まるで雷が轟くやう。其恩恵の豊

さと言ふたら、曾ぞ冬はなかつた、刈取れば、いよ／＼ますます／＼實るばかり

の秋であつた。浮れて喜ぶ時は、恰ど、おのが住む水面以上に脊中を見せ

て跳りはねる海豚のやう。王や侯伯も彼人から四季施を貰うて被てゐた。彼人は、王領や島國を、銀貨を衣囊から掴み出して撒くやうにして撒いてゐた。

ドラベ もし、クレオバトラさま！

クレオ なう、其方、わしが夢に見たやうな、そのやうな人が、實際世の中にゐたと思ふか、又はゐさうぢやと思ふか？

ドラベ さアまづ、をりますまいて。

クレオ 嘘をつけ、天へも達くほどの嘘ぢやそれは……が、よし實際さういふ人がゐるにせよ、又ゐたにせよ、到底夢にも思ひ及ばんほどの大きな人格……形の奇なものを造ることにかけては、自然の方が空想よりも材料に乏しいといふが、……アントニーのやうな人格は、自然の製作したものでありながら、幽霊じみたあの空想の産物を、悉く壓倒してしまふ程の傑作ぢや。

ドラベ まア〜お聴き下さりませ。……御身分の大きくあらせられるだけに御不幸も大きく、お悲しみもそれに應じて大きくあらせられます。私は貴女のお歎きを承つて心の底までも打たれたやうに御同感いたしてをります。若しこれが偽りならば、私の一切の希望が、悉く破れたはうがよろしうござります。

クレオ 禮をいひますぞ。……其方は、シーザーが子を如何しようとしてゐるか知つてゐますか？

ドラベ お知らせ申したいとは存じますけれども、申しかねます。

クレオ いゝえ、是非聞きたい……

ドラベ シーザーは正義を重んずる人ではございますが……

クレオ では子を凱旋の飾物にしようとするのか？

トラベ はい、さやうでござります、たしかに。

喇叭を盛んに吹鳴らす。奥にて多勢の聲にて開ける其處を。
シーザーどのウー！と叫ぶのが聞ゆる。

シーザー、ガラス、プロキュレイヤス、メシナス、クレオパトラの財務官セリユーカス及びその他の陪従出て来る。

シーザ 何れが埃及の女王殿下ぢや？

ドラベ (クレオパトラに) 皇帝でございます。

クレオパトラ 進み出で、シーザーの前に跪く。

シーザ お起ちなさい、膝をお突きなさるべきでない。どうぞお起ちなさい、埃及。

クレオ いゝえ、かうするのは神々の御意でございます。主君と崇めます以上は命

に順はねばなりません。

シーザ (扶け起して) 決してあしうお解しなさらぬがよい。貴女から曾て蒙つた損害

は、吾々の生身に染々と記録されてゐるのではあるが、それを私共はつい

その偶然の結果として記憶しようとしてゐるのです。

クレオ

世界の單獨の大君、妾は十分明淨には申し開きを能うしませぬけれど、つまりは昔から、屢々吾等女性をば辱めました其同じ弱點が此身にも過ちをさせたのでございます。

シーザ

クレオパトラどの、予は咎め立をするよりも和げ輕めようとしてゐます。

もし貴女が私共の意向通りになされば……それは貴女に對して最も寛大なのであるが……貴女は此變化によつて利するとも失なふ所はない、けれども若しアントニーのやうな振舞をして、吾々に殘忍の名をお負はせなさるやうぢやと、わたしの好意を無になさるばかりか、御依頼になれば喜んで保護をしようとしてゐるお子さんがたの身の上にまで破滅をお招きなさることになりませうぞ……では御免を蒙りませう。

シーザー 會釋して歸り行かうとする。

クレオ 其お會釋は痛み入りまする、世界は悉く御領地、人は悉く御配下ぢやのに。御紋附の楯や勝軍の目章に過ぎん私どもは、御意のまゝに何處にお掛けなさりませうと、異議はございませぬ。……(書面をさし出して)これを御覽下さりませ。

シーザ クレオバトラどの御自身に關する御都合は、どうか御自身で予におつしやつて下さい。

クレオ これは妾が現に所有してをりまする貨幣、金銀器、及び寶石類の目録でございまして、精密に價格をも附記してあります。すべて粗末な品は記入してありません。……セリユーカーは何處にゐますか？

セリユーカー (進みいで)こゝにをりまする。
 クレオ (シーザーに)これは妾の財務官でございませぬ。此者に嚴罰を約してお質下さいますし、決して何一品も自分の手許へは残さないのでございませぬから。

……セリユーカー、有りのまゝを申せ。

セリユーカー 御前、……私は寧ろ何も申すまいと存じます、偽りを申し上げて、御嚴罰を蒙りまするやうではと存じますから。

クレオ え、何かわたしが匿したものでありませんか？
 セリユーカー さア、あのお申附の品々を買ひ整へまするに必要だけを。

クレオバトラ 餘りの意外に驚き且つ恥づる。

シーザ いや、赤面なさるな、クレオバトラ、それは頗る正當な、賢明な所爲ぢや。
 クレオ おゝシーザー！ まア御覽なさい、これ、この通りぢや、時めき榮える者として

其臣下との關係は！ わらはの家臣が今日は貴下の家來にならうとしてゐる、が、若し位置を換へたなら、貴下のが妾のとならうとするであらう。此セリユーカーの恩知らずの爲に、予は氣が狂ひさうぢや。おゝ、奴隷め、金錢づくの情人同様、少しも信任の出來ぬ奴め！……(セリユーカーを打擲せ)

んとする。え、退るか？ 退るが當然ぢや、たしかに主を棄て、罷る奴ぢや。おのれ、假令飛び翔る翼が生えてゐようと、睨まへたからは、おのれの目を放すことでないぞ。 奴隷め、下司野郎め、畜生め！ お、卑劣な、卑劣な！

シーザ まア、女王、まア何卒。

クレオ お、シーザ、これはまア眞に何といふ怖しい恥辱であらう、世界の君主たる貴下が降服者たる妾を御下問下された晴れの場合に、妾みづからの家來が、悪意を以て、さらぬだに夥しい妾の恥辱の總額に、更に又一桁の恥を加へるといふは！ なう、シーザ、どの、假に妾が、幾らか、女子の好くやうな些細なものを、……つまらん玩弄のやうなものを、ほんの一寸友達へ手土産にするやうなものを……残しておいたからというて、さうして假に……幾らかそれよりも優しなものを……リギヤやオクテギヤに調停を頼む必要上、取除けておいたからとて、子飼同様の家來の爲に、それをば許發か

れねばならんのであらうか？ お、神々よ！ 今まで此身に蒙つたありとあらゆる不幸以上に身に徹へた！……（セリユーカーに）彼方へ往つてくれ。ぐづくしてゐると、假令運命が灰になつてしまつたとしても、女王の魂の殘燼が、其灰の中から、如何様な光りを、何時發するか知れんぞよ。 苟も汝が丈夫なら、予を氣の毒ぢやと思つてくれたであらうものを。

シーザ セリユーカー、暫く彼方へ。

セリユーカー 入る。

クレオ 一國の主たる者は、ともすると下の者のしたことで誤解されて、他人の罪を身に負うて滅びぬばならぬ故、氣の毒なものぢや。

シーザ クレオバトラ、貴女が残り留められた品も、公然提供なされた品も、予は戦利品の目録には加へません。 やッはりお手許にとめておいて、お心任せにお用ひになるがよい。 シーザは商人ではない、彼等が賣買するやうな

物を、貴女と共に手に入れようとはしませんから、安心しておいでなさい。
 おのが想像で、自ら牢屋をこしらへるやうなことをなさるな。いや、御
 安心なさい。予は貴女御自身がお望みなさる通りに貴下を待遇しようと思
 うてゐる。たつぷり食つて、ゆつくりお寝みなさい。予は飽迄も貴女
 の親友としてお爲を圖つてゐます。……では、御機嫌よう！
 主君と崇めままするお方！

クレオ パトラの 跪かんとするのを止めて

シーザ いや、さうぢやない。…御機嫌よう。

刺 吠。シーザー其陪従をひきぬて入る。

クレオ なう、女ども、子を口先で騙してゐるのぢや、口先で……立派な事をさせま
 いために。……一寸、チャーミヤン。

何事かチャーミヤンに囁く。

アイラ (半分獨語のやうに) お覺悟遊ばすがようござります。晴れた日は最早來ませ

ん。暗黒へ行くより他に爲様はありません。

クレオ (チャーミヤンにもう一度急いで。吩咐けておいたから、捕つてある筈ぢや。
 催促いて來てくれい。

チャー かしこまりました。

チャー

ドラベラ出て來る。

ドラベ 女王は何處にいらせられます？

チャー それ、あそこに。

チャーミヤン入る。

クレオ ドラベラか？

ドラベ 御前、御命令によつて誓言いたしましたことを奉じますのを、私の神聖な
 務と存じますので、申し上げます。シーザーはシリヤを経て凱旋せられま

す。さうして此三日の間に、貴女とお子様がたとを先へ送らうといふ豫定
でございます。それによつて宜しく御決定遊ばしませ。御意のまゝにお
約束を果しましたのでございます。

クレオ ドラベラ、長く其方の好意を荷ひまするぞ。

ドラベ ありがたうございます。御前さま、御機嫌よろしう、これからシーザード
のに陪侍せねばなりませんから。

クレオ 機嫌よう。ありがたう……

ドラベラ 入る。

アイラス、汝如何思ふ？ 汝は、これは埃及の操偶人ぢやというて、予と
一しよに、羅馬で見せ物にされるのぢや、膏ぎつた穢い前掛を懸けて、定
規や鐵槌を持つてゐる賤しい職人共が、わたしらを擔ぎ上げて見物人に見
せるんぢや、そいつらの下等な物を食うた臭い息が、霧のやうにわたしら

を包むので、否でも其汚い氣を吸込まねばならんのぢや。

アイラ とんでもない、眞平でございます！

クレオ いゝえ、きつと然うされます。無作法な警察の役人共が、賣淫婦か何かの
やうに、わたしらを捉へます。さうして下等な讀賣歌の作者が調子外れの
歌にわたしらの事を作る。機敏い喜劇役者が、早速の思ひ附でわたしらの
身の上を劇に仕組んで、アレキサンドリヤの宴會の場なんぞを演じるに相
違ない、アントニーどの、酔うてゐるところなんぞを。さうしてビーク
聲の小童めがクレオパトラに扮つて、予の威嚴を辱しめをるに相違ない。

アイラ お、神々さま！

クレオ いゝえ、きつとさうなります。

アイラ 私は決してそんな情ない目は見ません。その前に此指で此目を突潰し
てしまひます。

クレオ

ほんに、さうすれば、彼奴等の計畫を鼻明せることが出来る……

チャーミヤン 歸り来る。

さア、チャーミヤンや！……さ、女共、子を女王らしう装束させてくれい。最ち佳い服を取つて来てくれ。アントニーどのに逢ひに、又シドナス河へ行くのぢや。さ、アイラス、早う往つて……なう、チャーミヤンや、予はほんたうに行つてしまふのぢや、此手傳ひさへ濟してくれれば、大審判日が来るまでも遊ばれる暇を遣る……金冠も何もかも持つて来てくれい……や、あの音は如何したのぢや？

アイラス 出て来る。奥にて一寸騒しき音がする。一衛兵出て来る。

衛兵

賤夫らしい男が参りまして、是非とも拜謁が願ひたいと申してをります。無花果を持参いたしましたのでございませう。

クレオ

こちらへ通せ……

衛兵 入る。

ほんに粗末な道具で、立派な事が爲遂げられるもの！ 其男は予に自由を持つて来てくれたのぢや。覺悟をしたによつて、最早些も女の根性はない。頭から足の爪先まで、大理石のやうに堅固ぢや。もう決して變り易い月の感化などは受けん。

衛兵 又出る。道化役籠の中に毒蛇二頭を入れ、それに無花果の枝を被せて持つて出る。

衛兵

此男でございませう。

クレオ

その男を残して、退れ……

衛兵 入る。

汝は其處にナイル河の可愛い蛇を持つてゐるか、人を殺すけれど痛うはない蛇を？

道化

へい、持つてをりますだ。が、貴女さまが餘りソノこいつと御關係さッしやらないやうにお願ひしまするだ。咬まれると、どんな剛情な者でも、つゝいその革命(落命)に及びますだからね。一たん死ぬちふと、生返るのは多數はないだからね。

クレオ

咬まれて死んだものを知つてゐるか？

道化

へい、幾らも知つてますだ、男も女も。ついソノ昨日も、其中の一人に逢ひましたゞが、そりやソノ實體なお女房でがす、些ばかり嘘つく癖があるだけんど。……奴に如何して咬附かれたか、どんねえに痛かつたか、その女房が話してたでがす。よう利くといふでがす。けんど、彼等のいふことを残らず眞實にしてた分にやア、一生の半分を棒に揮つたつても、逆も天にや昇られますめえだ。が、此蛇や保險附でがす、奇な蛇でがす。

クレオ

退れ。……さよなら。



道化

たつぷりと蛇をお賞翫なせえまし。

籠を残しおきて行きかける。

クレオ

さよなら。

道化

が、ようがすかね、蛇は性來通りにやらかしますからね、お氣をお付けなせえまし。

クレオ

よし／＼。……さよなら。

道化

ようがすかね、その蛇は賢明な人が扱はつしやらねえと、危うがすせ。ほんとに其奴アよくねえ奴

でがすから。

クレオ 心配には及ばん。注意するから。

道化 よろしうがす。…何にも與らないがようがすよ、飼ふ價值はねえだからね。

クレオ わしをば食ふであらうか？

道化 人を馬鹿にさつしやりません、悪魔だつて女を食ふやうなことはしねえといひますだ。が、女は、神さまだつて、悪魔が料理したのでなけりや賞翫なさるといひますア。けんど、とかく女の事ちや悪魔めが神さまを困せるだ、女十人について五人は悪魔がめちやくにしツちまふちだからね。

クレオ さア、もう退れ。さよなら。

道化 へい。たつぷりと蛇をお賞翫なせえまし。

道化 役入る。

アイラス 女王の大禮服、金冠等を携へて出て来る。

クレオ

其服を與れ、其金冠をかぶせてくれ。早う不死不滅の境遇へ入りたい。も

う決して埃及の葡萄の液が此唇を濕すことはあるまい。早う、早う、アイ

ラス。さ、早う。予はアントニーどの、呼んでゐるのが聞えるやうに思

ふ。予の此立派な所行を賞めうとて起つのが見える。シーザーの僥倖を

嘲つてをられるのが聞える。神たちが、暫く僥倖を與へておかれるのは、

後で酷う罰する時の口實なのぢや。…我夫よ、さ、行きますぞ。予の勇氣

よ、夫の名に恥ぢんやうに行つてくれ！ 火と空氣になるのぢや。水や土

は此卑しい生に残しておく。…(アイラスらに)然う。最早すんだか？ ぢや、

來て予に最後の接吻をせい。…

一人々々に接吻する。この以前アイラスはクレオパトラに服を被せながら、ひそかに籠の中なる毒蛇を取出して、おのれが腕

へ附著けて咬ませることあり。此時突然倒れて死す。

クレオ (アイラスの倒るを見て) 予の唇に毒蛇の毒があるのか? 仆れる? そんなに易々と斯生が去られるものなら、死の神に打殺されるのは戀人に捻られるやうなもの、害は爲ても好しいものぢや。……(アイラスを見やりて) まだじつとしてゐる? こんなことで勝てるものなら、死ぬには暇乞も要らぬ位と汝は吹聴してゐるやうなものぢや。

チャー 黒雲が溶けて強雨となつてくれい! 神々さままでも泣いてござると言ひたいから!

クレオ こりや予の卑怯な證據ぢや。若し彼女が先へ往つてアントニーどのに逢ふやうぢやと、つい種々なことを訊ねて、アントニーどのが彼の貴重な接吻を彼女になさるに相違ない、予の極樂とも思つてゐるあの接吻を……さ、來い、(籠より毒蛇を取出して) 汝、おそろしい奴、さ(胸にあて) 汝のその鋭い齒

で、此錯交つた命の結び目を只一思ひに解してくれ。やい、毒蟲の奴、怒れ、早う行つてくれ。……お、若し汝が物を言うたなら、あの偉がつてゐるシーザーめを、鼻明された阿呆と呼ぶのを聞くことが出来ようになア!

チャー お、東方の明星さまが!

クレオ 叱、叱! これ、此胸に嬰兒がゐるのが見えんか? ……乳母を眠さすやうに、すやくくと乳を吸うてゐるのが。

チャー (胸をおさへて) お、裂ける! お、裂けてしまつてくれ!

クレオ よい氣持ちや、鎮痛劑のやうで、柔かで、まるで空氣のやうに、さうして……お、アントニー! ……さうぢや、汝も著けてやらう。……

又一疋の毒蛇を取りて腕に押しあて、

何の爲に留まつてゐよう……

半分言ひさして息絶ゆる。

チャー (其言葉を言ひ足して) 此可厭な浮世に? ……ぢや、お別れいたします。さア
死の神よ、自慢なさい、今お前の手に入つたのは、滅法界もない娘さんでござんすぞ。……(クレオパトラの死顔をながめて) 絨毛の附いた窓も最早これで閉切
黄金色の太陽だつて、最早二度とは如彼な立派な眼で詠めて貰ふことは出
来ないんだ! ……お金冠が歪んでます、おなほし申しませう、さうしとい
てから遊びませう。

死骸に寄り添ひて王冠を被せ直しなどする。
此途端に衛兵數人駆け入る。

第一衛 女王は何處においでいます?

チャー しづかに。お目が覺めるとわるい。

第二衛 シーザーどのからの…

チャー お使ひなら…遅過ぎた…

と言ひつゝ、毒蛇を胸にあてる。

おゝ、早く、早く行つてくれ! ……もう感じて来た。

第一衛 (外に向ひて) おい、来て下さい! 變事があります。シーザーどのはお
欺されなすつたんだ。

第二衛 シーザーのお遣しになつたドラペラが居る筈だからお呼びなさい。

第一衛 (あちこちに倒れてゐる女王主従の死骸を見渡して) こりやまア如何したといふんだ?
……え、チャーミヤン、こんなことが當然であらうか?

チャー 當然だとも。連綿として續いてゐた王統のお姫さまに似合はしいこと
です。……あゝ、もし!

チャーミヤン 息絶ゆる。

ドラペラ 出て来る。

ドラペ 如何な様子です?

第二衛 みんな死んぢまつたんです。

ドラベ シーザー、お前さんの豫想が中つた。止めたいと思つてゐなすつた其怖しい事が出来してしまつたのを、やつて来て御覽なさることになつた。

奥にて「そこを開ける、シーザーどの、お通りだ！」と呼ぶ。

シーザー及び其陪從全體 進軍の體にて出て来る。

ドラベ (シーザーに) お、貴下は卜者同様で



いらせられます。御心配が適中いたしました。

シーザ 最期に臨んで、流石に立派に此方の意向を覗ひあて、氣高い女王だけに、自殺を遂げた。……どうして死んだのぢや?……出血は見えんやうぢやが、最終に訪問した者は何者だ?

ドラベ 第一衛 愚鈍な田舎者が一人無花果を持参しました。其籠がそれです。

シーザ では、毒死ぢやな。

第一衛 お、シーザー、此チャーミヤンは、つい今がたまで生きてをりました。立つて物を言つてをりました。私が参りました時には、亡られた女王のお冠りを据直してをりました。ぶるくふるへながら立つてをりましたが、突然に倒れましたのでござります。

シーザ あ、殊勝な女どもぢや! 若し彼等が毒を服したのなら、外部が膨上つて見えさうなものぢやが、女王は眠つてゐるやうに見える、其強大な美の係

蹄に第二のアントニーをば掛けようとしてゐるかのやうに。

ドラベ　こゝに、女王のお胸に、血の出た痕がありました、少々膨れてをります。お腕にも同様の痕があります。

第一衛　こりや毒蛇の爬つた痕です。さうして此無花果の葉に滑りがござります、恰ど毒蛇がナイル河の洞に斯ういふ滑りを附けておきます。

シーザ　いかさま、全く然うして死亡つたものらしい。何故なれば、彼女が侍醫のいふ所によると、女王は容易く死ぬ方法について、限りなく種々の試験を求め試みたといふから。……女王の臥床を取上げい。さうして其侍女共の死骸も廟外へ荷ひ出せ。女王はアントニーの傍らに埋葬しよう。地球上の何の墓穴にもこれほど名高い男女を包蔵するのはなからう。かういふ大事件は、其事件の主動者たる者を深く感動せしめずにはおかん。而うして彼等の閱歴談が世の同情を呼ぶと同時に、彼等を哀悼せしむるに至つ

た其勝利者の名譽も高い。我軍は嚴肅に隊伍を整へて、此葬儀に列し、それから羅馬へ歸ることにしよう。……さ、ドラベラ、おぬしは此大葬儀が十分鄭重に、立派に執行されるやうに監督せい。
皆々入る。

* * * * *

アントニーとクレオパトラ (完)

大正四年六月十二日印
大正四年六月十五日發行
大正四年七月二十八日再版發行
大正七年八月十八日三版發行
大正八年八月十五日四版發行

大正九年四月二十日五版發行
大正十一年十月五日六版發行

(製復許不)

付費ヲトバシテコレトニトシテ
錢拾五圓貳金價正

譯者 東京市牛込區余丁町百十四番地 坪内雄藏

發行者 東京市牛込區辨天町百五十七番地 種村宗八

印刷者 東京市牛込區櫻町七番地 渡邊八太郎

發行所

東京市牛込區
早稻田

早稻田大學出版部

(振替口座東京一三三三番)

→[刷印社會式株刷印清日]←



文 學 博 士 坪 内 逍 遙 譯

沙 傑 翁 傑 作 集 (第一編)

ハムレット

(十七版) 三色版口繪入 木版密畫多數入 定價貳圓五十錢 郵稅十一錢

此劇は沙翁の作三十七篇中の最有名なもので、荷も文化國の片鱗に列してゐる國で、此作を譯してゐない國はない。此作に關する出版物は、今から十三年前、大苦心で此傑作集の手に初めから譯した。其頃はまだ口語體が今ほど行はれてゐなかつたら、専ら大苦心で、俗折衷體に譯した。其趣味が、本譯には英國の學者といへども、独自の研究の餘になつた。一論が添へた。あり、位、雅緻に富んだ挿畫數十個、精巧な木版及び美麗な三色版の名優アトゴンクが扮した。ハムレット(寫眞版)名優アトゴンクの扮した。ハムレットが載せてある。

沙 傑 翁 傑 作 集 (第二編)

ロミオとジュリエット

(十一版) 寫眞版口繪入 木版密畫多數入 定價貳圓五十錢 郵稅十一錢

これは純粹の戀愛悲劇として、沙翁の作中唯一の物で、劇としては勿論、オペラとして、活動寫眞として、絶えず繰返して演ぜられる。十四歳の處女と詩人肌の青年の不幸な情死譚で、原文はハムレットに劣らず讀みにくい。殊に比喩や口合や洒落が夥しいのを、それを雅俗折衷體で譯した點に非常の苦心と特色がある。沙翁の若い時の作だから、いかにも若々とした麗はしさが全編に溢れてゐる。口繪、挿畫の豊富はハムレットと同例である。

發 行 所 早 稻 田 大 學 出 版 部

賣 捌 所

東京神田 東京神田 東京日本橋 東京京橋 大阪東區 名古屋市

富山房 東京堂 至誠堂 北隆館 東海堂 盛文館 星野書店

(其 他 各 地 書 肆)

文 學 博 士 坪 内 逍 遙 譯

沙翁 傑作集 (第七編)

テロペスト

(六版) 寫眞版口繪入 木版密畫多數入 定價貳圓五十錢 郵稅十二錢

この作は沙翁の絶筆だといはれてゐる。それに關しては卷末に譯者が多年の研究考察になつた一大論文を附録として添へてあるが、成程さうかも知れない。いかにも豊潤な、深刻な而も綽々たる餘裕のある夢幻的な高雅な喜劇である。前六種の作とは全く趣味情調を殊にしたロマンチックな喜劇で、妖精が出る、半人半獣の怪物が活動する、神仙のやうな人物、男を生れてからまだ二人とては見てゐなかつた處女がはじめて戀を知るなど、感興盡くる所がない。

沙翁 傑作集 (第八編)

アンテニダとカレオポトラ

(六版) 三色版口繪入 木版密畫多數入 定價貳圓五十錢 郵稅十二錢

沙翁の偉大なのは其作の彌、出てて彌、傑特な點にある。作意の變化して窮らない所にある。此作は其作才の爛熟期の最後の傑作で、巧みに世界的悲劇の契機を捉へて「全世界に君たらんが、熾烈なる肉の戀愛を全うせん」といふ大テーマに達著した英雄的放蕩兒が功名の末路を活寫したもので、所謂四大悲劇以外に一新機軸を出だし、諸評家をして沙翁作中の最大驚異と推賞せしめた。殊に、妖女王の性格の描寫は眞に驚異中の驚異で、古今空絶である。其間に丸て漢楚軍談でも讀むやうな男性的、政治的な興味が漲る。

發行所 早稲田大學出版部 早稲田 京早 達田

文 學 博 士 坪 内 逍 遙 譯

沙翁 傑作集 (第九編)

眞夏の夜に夢

(五版) 三色版口繪入 木版密畫多數入 定價貳圓五十錢 郵稅十二錢

大沙翁の多方面な天才の空想的側面の代表作としては、此上もない醉乎として醉な作である。先づ「テロペスト」に似たものといへるが、若い時分の作だけに更に愉快、更に奇抜、更に微妙、更に飄逸である。五幕十幾場、其三分の二は悉く夢であり、幻である。想も夢幻的であり、調も夢幻的である。いろく、な妖魔が頻に跳梁して恣に人間を翻弄する。入妖が錯綜するが、それが極めて自然である。理窟を全脱して、而も條理が整然としてゐる。艶情があり、滑稽があり、葛藤があり、悲喜がある。忽ち喜劇、忽ち笑劇、忽ち歌劇、絶對無類の脚色。

沙翁 傑作集 (第十編)

マクベス

(七版) 三色版口繪入 木版密畫多數入 定價貳圓五十錢 郵稅十二錢

所謂四大悲劇の一つで、沙翁が技術の圓熟期の作である。ドストエフスキーの「罪と罰」の結構を更に雄大にし、さうして劇化したやうな名篇である。或は「テロペスト」以上と稱せられたらう。それほど傑出した作である。特に本編には附録として譯者が「日本に於ける沙翁研究」を案及ぶ上演の略誌を添へた。これは我國での沙翁研究の沿革を精査したもので、著譯書とも其年順、書名、著譯者の名、發行所の名を明かにし、其上演に就いては、其年月、外題、譯者、俳優、劇場までも詳かにしてある。本編研究の必讀を要する。口語體で譯されてあるだけに、所謂四大悲劇中では、これが一等讀み易いであらう。

發行所 早稲田大學出版部 早稲田 京早 達田

文 學 博 士 坪 内 逍 遙 譯

沙翁傑作集 (第十一編)

以尺報尺

(三版) 寫真版口繪入 木版密畫多入 定價貳圓五十錢 郵稅十二錢

本篇は沙翁が作中で最も皮肉な喜劇と特稱せられるものである。沙翁にも得意時代、失意時代があつたのだが、これは其悲觀時代の一名作で、現實曝露的な所に一味ショウヤブリーラの近代劇と相通する皮肉味がある。附録として、特に難句解が添へてある。印刷、口繪、挿畫、裝釘、其他一切前例の通り。此事は一々これからは断らないであらうが、同例だと信じて下さい。

沙翁傑作集 (第十二編)

夕の夜を遊ぶ

(四版) 三色版口繪入 木版密畫多入 定價貳圓五十錢 郵稅十二錢

つい先年英國の劇作者、舞臺監督者のパークーが最新式の上演をやつて大評判になつた沙翁の最晩年の最練熟した技巧に成つた作である。今尙舞臺上で必ず成功する不思議に歌舞伎劇式の世話と時代と喜劇的氣分との混淆した夢幻劇である。四大悲劇ぐらゐでは萬魂の沙翁は分らない。斯ういふ作を意味しないうちは沙翁を語る權利がない。わが國の歐阿彌などの講釋種のお家騒動物に一寸似た筋立てであるが、其詩としての品位は比べ物にならない。

發行所 早稲田大學出版部 東京早稲田

文 學 博 士 坪 内 逍 遙 譯

沙翁傑作集 (第十三編)

リチャード三世

(三版) 寫真版口繪入 木版密畫多入 定價貳圓五十錢 郵稅十二錢

沙翁が習作時代の傑作で純粹の正史劇の標本で、わが國でいふ活劇に相當するが、同じやうに正史本位で書いても我國の作者は大詩人とおぼろしくいふ歴史劇に相當するだけ、同じやうに分る。主人公は王族でありながら僞徳の骨子をもろしく、醜い惡覺的天才である。道破はニイチエが大發見らしく唱へた例の逆徳の骨子をもろしく、醜い惡覺的天才である。道破させてゐる。エリザベト勃興當時の代表作で、既譯十二編とは全く撰を異にしてゐるところを熟讀なさい。

沙翁傑作集 (第十四編)

ヘンリー四世

(再版) 三色版口繪入 木版密畫多入 定價貳圓五十錢 郵稅十二錢

沙翁の史劇中の最傑作である。第一、第二と二部に跨つてゐる長篇で、英國の内亂を舞臺面にした勇壯激越な政治的悲劇と、自然の滑稽で人の願を極め、織り交ぜてある。今尙躍り動くやうな市井風俗の喜劇とが、無縫の天衣のやうに、此作の喜劇部だけには全くの我を折つて、沙翁の易者味がある。賞めてゐる。殊にフオレストと、自然で、其性質の複雑な點に於ては、大分不自然格描寫は古今獨歩である。フオレストは、純粋で、其性質の複雑な點に於ては、大分不自然でも不純でもある。フオレストは、純粋で、其性質の複雑な點に於ては、大分不自然を凌駕してゐる。評者の多くはフオレストにまつては、男性描寫として、優に他のすべて

發行所 早稲田大學出版部 東京早稲田

文 學 博 士 坪 内 逍 遙 譯

沙翁傑作集 (第十六編)

お氣に召すま

沙翁が幸福に暮らしてゐた得意時代の作であるので、彼れの喜劇中の最も陽氣な、最も愉快な作だと稱される。讀む者も自然と暢氣な晴々とした心持になる。『牧歌的』と特稱される作である。田野山林の詩趣が横溢してゐる。或部分は品のよい喜劇とも見られる。舞臺が主として深林中なので、野外劇の脚本にもされる。清淨な、無邪氣な、可憐な、高雅な作意であるから、外國では女學校の餘興用に歡迎してゐる。既譯十五卷中のどの作とも違つてゐる處に此作の特色がある。

三色版口繪入
木版密畫多數入
定價貳圓五十錢
郵稅十二錢

沙翁傑作集 (第十七編)

おぢやん馬劇さん

沙翁立身前後に流行つた、フアリス仕立の思ひ切つて變から式な喜劇の代表作である。其れ自ら一喜劇である開幕劇へ、本筋の喜劇を編み込んだ趣向が、先づ最も珍らしい。雷聲が雷姫を難なく征服する段取に至つては更にをかしい。不思議に今も尙歡迎される喜劇である。我國では其幾場かは観客された。本譯には例の挿繪以外に特に名優の寫眞數葉を挿入した。沙翁の喜劇中の最も分り易いものから讀みたいと望む人は、先づこれからお讀みなさい。

寫眞版口繪入
木版密畫多數入
定價貳圓五十錢
郵稅十二錢

發 行 所 早 稻 田 大 學 出 版 部 東 京 早 稻 田 牛 込 達 田

坪 内 逍 遙 譯

沙翁傑作集 (第十八編)

十一夜

既刊「お氣に召すま」の姊妹篇である。學生の同胞の女の方が故あつて男装してゐるのが間違ひの種になる作意である。此間違ひを骨子とした點だけは作者の習作期の或作に似てゐるが、劇詩としての價値は無論數等優つてゐて、沙翁が作中、喜劇としては最も純粹なものと稱せられ、今尙愛讀もされ、實演もされる。既刊のどの作とも異つた味だから、之を讀むと沙翁の創作力の彌々出て、無盡藏なことが分る。上品な滑稽、高雅な戲謔の上乗である。

寫眞版口繪入
木版密畫多數入
定價貳圓五十錢
郵稅十二錢

全 六 冊 完 成

イブセン傑作集

四六判美本
口繪數葉入
各畫圖五十錢
郵稅各十錢

- 1 島村抱月譯 人 形 の 家
- 2 島村抱月譯 海 の 夫 人
- 3 坪内士行譯 羅斯梅ルスホルム
- 4 坪内士行譯 小さいアイヨルフ
- 5 坪内士行譯 野
- 6 坪内士行譯 ヘツダ・ガブラー

發 行 所 東 京 早 稻 田 牛 込 達 田 早 稻 田 大 學 出 版 部

選者

坪内逍遙
饗庭篁村
幸田露伴
島村抱月
水谷不倒

校訂新釋者

水谷不倒

(訂正再版)

各卷目次
申込次第進呈

近松傑作全集

新釋
近松に關する空前の大著!

本書の選者たる五大家が近松文學精通の權威たるは言ふまでもなし。不倒氏が夙に意を近松研究に注ぎ、研鑽到らざる所無く、近松通を以て一世に推さる、事は茲に喁々するを要せず。五大家は幾多の研究討論を経て精を抜き粹を集め四十餘篇を選定したり。是等諸作中には非凡の傑作なるに拘らず全く後世に忘れられ、其原本の如きも殆ど全く湮滅して僅に一本を傳へたる珍品も尠しとせず。校訂、解題、註釋、挿繪及び五大家の序論等近松研究として些の遺憾なし。

菊全四卷各引全
判別卷四圓壹卷五
美註に別卷四圓壹卷五
裝註に別卷四圓壹卷五
圖釋の釋註に別卷四圓壹卷五
二圖釋の釋註に別卷四圓壹卷五
百餘引索の釋註に別卷四圓壹卷五
個卷一引索の釋註に別卷四圓壹卷五

日本近代文藝の精華!

東京 牛 早稲田大學出版部
三二一 京東 部

終

